

Department Goals				Class Hours per Week												Instru- ctor	Divisi- on in Learni- ng		
Course Category	Course Title	Course Code	Credit Type	Credits	1st Year		2nd Year		3rd Year		4th Year		5th Year						
					1st Q	2nd Q													
General	基礎数学 1	0101	School Credit	4	4	4												Yama- da Kohtar- o, Nishi- mori Yasuhi- to	
General	数学A	0102	School Credit	2	2													Taga- mi Takan- ori	
General	英語 1	0103	School Credit	2	2													Katsuf- uji Kazuk- o	
General	保健	0104	School Credit	1	2														
General	体育	0105	School Credit	2	2													Arai Osam- u, Nak- ashim- a Hajim- e	
General	美術・デザイン	0106	School Credit	2	2													Koduki Kayo	
General	日本語総合	0107	School Credit	2	2													Nishik- ori Hirofu- mi	
General	倫理	0108	School Credit	2	2													Fujii Taketo	
General	理科総合	0109	School Credit	4	4	4	4											Matsu- o Toshih- iro, Ya- mada Yohei, Yoshi- mura Hirosh- i, Ota Naoto mo	
General	英語A	0110	School Credit	2	2													Tanina- ka Toshih- iro	
General	基礎数学 2	0201	School Credit	4				4	4									Nishim- ori Yasuhi- to, Kushi- da Masah- iro, Ta- gami Takan- ori	
General	数学B	0202	School Credit	2			2	2										Kushid- a Masah- iro, Ya- mada Kohtar- o	





Anan College		Year	2016	Course Title	基礎数学 1
<b>Course Information</b>					
Course Code	0101		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 4	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:4 後期:4	
Textbook and/or Teaching Materials	「高等学校 数学 I、数学 II」、 「新課程チャート式基礎と演習 数学 I + A、II + B」、 「はぎ取り式練習ドリル 数学 I、数学 II」 (数研出版)				
Instructor	Yamada Kohtaro, Nishimori Yasuhito				
<b>Course Objectives</b>					
1. 多項式の基本的な計算ができる。 2. 2次関数について理解し、具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できる。 3. 三角比の意味について理解し、具体的な事象の考察に活用できる。 4. 三角関数について理解し、その計算ができる。					
<b>Rubric</b>					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1		和や積の組み合わせを工夫して、式の展開や因数分解を行うことができる。	多項式の基本的な計算ができる。	多項式の基本的な計算ができない。	
到達目標2		具体的な事象に対し、2次方程式や2次不等式を用いて、問題を解決することができる。	2次関数について理解し、2次方程式や2次不等式を解くことができる。	基本的な2次方程式や2次不等式を解くことができない。	
到達目標3		具体的な事象に対し、三角比および正弦定理・余弦定理を用いて、問題を解決することができる。	三角比の意味について理解し、基本的な三角比および正弦定理・余弦定理を用いた計算ができる。	基本的な三角比を求めることができない。	
到達目標4		具体的な事象に対し、三角関数を用いて、問題を解決することができる。	三角関数およびそのグラフ等について理解し、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	三角関数に関する基本的な計算ができない。	
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	数学は工業高専において根幹となる科目である。基礎数学1では、方程式と不等式、2次関数、図形と計量及び三角関数について基礎的な知識と技能を習得する。また、それらを的確に活用する能力を養い、数学的な見方や考え方を身につける。				
Style					
Notice	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。 2. 数学力の定着には、日々の復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	1. 方程式と不等式	1-(1) 整式の加法、減法、乗法ができる。	
		2nd	1. 方程式と不等式	1-(2) 因数分解ができる。	
		3rd	1. 方程式と不等式	1-(2) 因数分解ができる。	
		4th	1. 方程式と不等式	1-(3) 根号を含む計算ができる。	
		5th	1. 方程式と不等式	1-(3) 根号を含む計算ができる。	
		6th	1. 方程式と不等式	1-(4) 1次不等式を解くことができる。	
		7th	1. 方程式と不等式	1-(4) 1次不等式を解くことができる。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	2. 2次関数	2-(1) 2次関数およびそのグラフについて理解している。	
		10th	2. 2次関数	2-(2) 2次関数の最大・最小を求めることができる。	
		11th	2. 2次関数	2-(2) 2次関数の最大・最小を求めることができる。	
		12th	2. 2次関数	2-(3) 2次方程式を解くことができる。	
		13th	2. 2次関数	2-(3) 2次方程式を解くことができる。	
		14th	2. 2次関数	2-(4) 2次不等式を解くことができる。	
		15th	2. 2次関数	2-(4) 2次不等式を解くことができる。	
		16th	前期末試験		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	3. 図形と計量	3-(1) 正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。	
		2nd	3. 図形と計量	3-(1) 正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。	
		3rd	3. 図形と計量	3-(1) 正弦・余弦・正接およびその相互関係を理解している。	
		4th	3. 図形と計量	3-(2) 正弦定理・余弦定理を理解している。	
		5th	3. 図形と計量	3-(2) 正弦定理・余弦定理を理解している。	
		6th	3. 図形と計量	3-(2) 正弦定理・余弦定理を理解している。	
		7th	3. 図形と計量	3-(3) 三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。	
		8th	後期中間試験		

4th Quarter	9th	3. 図形と計量	3-(3) 三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。
	10th	4. 三角関数	4-(1) 弧度法および一般角の三角関数について理解している。
	11th	4. 三角関数	4-(1) 弧度法および一般角の三角関数について理解している。
	12th	4. 三角関数	4-(2) 三角関数の性質とグラフについて理解している。
	13th	4. 三角関数	4-(2) 三角関数の性質とグラフについて理解している。
	14th	4. 三角関数	4-(3) 加法定理を理解している。
	15th	4. 三角関数	4-(3) 加法定理を理解している。
	16th	学年末試験	

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	90	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	数学A
Course Information					
Course Code	0102		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	「高等学校 数学A、数学Ⅰ、数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B」、 「はぎ取り式練習ドリル 数学A、Ⅰ、Ⅱ」(数研出版)				
Instructor	Tagami Takanori				
Course Objectives					
1. 場合の数を、順列や組み合わせと関連して理解し整理できる。 2. 確率を集合との関係でとらえて計算できる。 3. 指数関数及び対数関数について理解し、その計算ができる。					
Rubric					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標 1		場合の数、順列や組合せのやや複雑な計算ができる。	場合の数、順列や組合せの基本的な計算ができる。	場合の数、順列や組合せの計算ができる。	
到達目標 2		具体的な事象に対し、確率を集合との関係で理解することができ、やや複雑な計算ができる。	確率を集合との関係で理解することができ、基本的な計算ができる。	確率を集合との関係で理解することができない。または、基本的な計算ができない。	
到達目標 3		指数関数及び対数関数について理解し、やや複雑な計算ができる。	指数関数及び対数関数について理解し、その基本的な計算ができる。	指数関数及び対数関数について理解できない。または、基本的な計算ができない。	
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	数学は工業高専において根幹となる科目である。集合や命題の学習を通して論理的な思考を身につけ、場合の数や確率を通して、日常の中に現れる数学を学ぶ。また、指数関数・対数関数について学び、事象を数学的に考察し処理する能力とそれらを活用する態度を育てる。				
Style	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。 2. 学力の定着には、日々の予習復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。				
Notice					
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	集合	集合について理解している。	
		2nd	集合	補集合とド・モルガンの法則を理解している。	
		3rd	場合の数と確率	集合の要素と個数を理解している。	
		4th	場合の数と確率	集合の要素と個数を理解している。	
		5th	場合の数と確率	順列の計算ができる。	
		6th	場合の数と確率	順列の計算ができる。	
		7th	場合の数と確率	組合せの計算ができる。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	場合の数と確率	組合せの計算ができる。	
		10th	場合の数と確率	確率の基本性質を理解している。	
		11th	場合の数と確率	確率の基本性質を理解している。	
		12th	場合の数と確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		13th	場合の数と確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		14th	場合の数と確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		15th	場合の数と確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		16th			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	指数関数・対数関数	指数法則を理解している。	
		2nd	指数関数・対数関数	累乗根の計算ができる。	
		3rd	指数関数・対数関数	累乗根の計算ができる。	
		4th	指数関数・対数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		5th	指数関数・対数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		6th	指数関数・対数関数	指数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		7th	指数関数・対数関数	指数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		8th	後期中間試験		
	4th Quarter	9th	指数関数・対数関数	対数とその性質を理解している。	
		10th	指数関数・対数関数	対数とその性質を理解している。	
		11th	指数関数・対数関数	対数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		12th	指数関数・対数関数	対数関数とそのグラフの関係を理解している。	
		13th	論証	命題と条件について理解している。	
		14th	論証	論証について理解している。	
		15th	論証	論証について理解している。	

		16th					
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	英語 1
<b>Course Information</b>					
Course Code	0103		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	POLESTAR English Communication I, 数研出版, 同準妃ナビゲーションノート, ワークブック Standard フェイバリット英単語・熟語<テーマ別>コーパス 3000, 東京書籍/英語Aの文法参考書				
Instructor	Katsufuji Kazuko				
<b>Course Objectives</b>					
1. 予習復習を含む着実な英語の学習習慣を身に付ける。 2. 教科書の読み物を、100語~200語のパートごとに、重要語句と重要文法事項を意識しながら正確に理解できる。 3. 教科書の読み物をややゆっくりめの音声に合わせてシャドウイングできる。 4. 教科書の読み物で学習した重要語句と語彙集の語彙やチャンクの意味を理解し、習得する。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
到達目標1	予習復習に加え、自分なりの目標も決めて英語学習を着実に進める習慣が身に付いている。	予習復習中心に着実な英語の学習習慣が身に付いている。	英語学習は予習復習も十分にできなかった。		
到達目標2	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。	教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。	教科書の読み物の英文について、理解できないところが多く残っている。		
到達目標3	教科書の読み物をややゆっくりめの音声に合わせて十分英語らしい発音でシャドウイングできる。	教科書の読み物をややゆっくりめの音声に合わせて英語として通じるレベルの発音でシャドウイングできる。	教科書の読み物をややゆっくりめの音声でもシャドウイングできない。		
到達目標4	教科書の読み物で学習した語句と語彙集の語句を80%以上の正確さで理解し、習得している。	教科書の読み物で学習した語句と語彙集の語句を60%~79%以上の正確さで理解し、習得している。	教科書の読み物で学習した語句と語彙集の語句の理解や習得が60%未満である。		
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。同時に、教科書の音読を通して英語の発音と自然なリズムと直読直解のスキルを身に付ける。さらに、語彙集を用いて語句やチャンクを暗記し、語句の使い方を学習し、語彙力を増やす。				
Style	ナビゲーションブックを用いて予習と授業を行う。予習では、不明な語句や文法事項にアンダーラインを引き、授業では、これらについて質疑応答などをおして解説する。単元の学習のポイントをスライドを用いて説明し、その後音読やシャドウイングを行ってインプットの定着を促進する。単元の章末問題は、グループワークによって実施する。定期試験ごとにワークブックの課題を課すので、期日までに仕上げる。語彙集に関しては、小テストを随時行い、学習の進捗を確認する。				
Notice	1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. オリエンテーションで指示するやり方で、十分予習復習と語彙学習を行うこと。 3. 特別課題として、長期休暇中に課題を課す。 4. 語彙集を用いて、単語テストを実施する。 5. 後期中間試験後に、学習到達度試験（GTEC）を実施する。				
<b>Course Plan</b>					
		Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション	学習方法についての理解	
		2nd	Lesson1	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		3rd	Lesson1	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		4th	Lesson1~Lesson 2	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		5th	Lesson2	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		6th	Lesson2	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		7th	Lesson3	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	前期中間答案返却 Lesson3	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		10th	Lesson3	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		11th	Lesson4	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		12th	Lesson4	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		13th	Lesson4~Lesson 5	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		14th	Lesson5	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	
		15th	Lesson5	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。	

		16th	前期末試験 前期末答案返却	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	Lesson6	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		2nd	Lesson6	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		3rd	Lesson6~Lesson7	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		4th	Lesson7	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		5th	Lesson7	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		6th	Lesson7~Lesson8	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		7th	Lesson8	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		8th	後期中間試験	
	4th Quarter	9th	後期中間答案返却 Lesson8	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		10th	Lesson8	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		11th	Lesson9	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		12th	Lesson9	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		13th	Lesson9~Lesson10	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		14th	Lesson10	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
		15th	Lesson10	到達目標の1~4について、全Lessonを題材に学習します。
16th		学年末試験 学年末答案返却		

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	60	10	30	0	0	100
基礎的能力	60	10	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	保健		
Course Information							
Course Code	0104	Course Category	General / Elective				
Class Format	Lecture	Credits	School Credit: 1				
Department	Liberal Arts and Sciences	Student Grade	1st				
Term	First Semester	Classes per Week	前期:2				
Textbook and/or Teaching Materials	現代高等保健体育、大修館書店 /なし						
Instructor							
Course Objectives							
1. 生活習慣病や感染症、薬物乱用、交通安全などの現代の健康問題とその対策について説明できる。 2. 思春期の健康に関すること、健康を支えている保健・医療の仕組みについて説明し活用できる。 3. 環境汚染による健康被害を理解し、環境保護について説明できる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1		生活習慣病や感染症、薬物乱用、交通安全などの現代の健康問題とその対策について説明できる。					
評価項目2		思春期の健康に関すること、健康を支えている保健・医療の仕組みについて説明し活用できる。					
評価項目3		環境汚染による健康被害を理解し、環境保護について説明できる。					
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline	人間が成長発達しながら生きていくことを理解し、生活習慣病の知識を身につけ生涯を通じて健康を保持増進できる能力を養う。						
Style							
Notice	生涯を通じて健康生活を保持促進するためには、健康についての知識が欠かせません。健康についての知識を高め、現代社会を生き抜く知恵を学んでください。						
Course Plan							
			Theme	Goals			
1st Semester	1st Quarter	1st	生活習慣病とその予防	生活習慣病について説明でき、より良い生活習慣の重要性を認識できる。			
		2nd	食事・運動・休養と健康	健康的な食生活、健康のための運動、より良い休養について説明できる。			
		3rd	喫煙・飲酒と健康	喫煙や飲酒を他人事でなく自分たちに			
		4th	薬物乱用と健康	薬物乱用が心身の健康に及ぼす悪影響を説明できる。			
		5th	感染症とその予防	性感染症やエイズについて基礎知識を学び予防対策について説明できる。			
		6th	交通事故の現状とその要因	交通事故の現状と要因について説明できる。			
		7th	応急手当と心肺蘇生法	応急手当や心肺蘇生法、熱中症対策についての基本的な手順を説明できる。			
		8th	中間試験				
	2nd Quarter	9th	思春期と健康	思春期の特徴が説明でき、異性を尊重する態度の必要性について説明できる。			
		10th	結婚生活と健康	健康的な結婚生活、受精・妊娠・出産の過程を理解し、説明できる。			
		11th	家族計画と人工妊娠中絶	家屋計画の意義や方法について理解し、説明できる。			
		12th	医療制度・医療品と健康	さまざまな医療機関や医療費が支払われる仕組みについて説明できる。			
		13th	環境汚染と健康	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染と健康被害について説明できる。			
		14th	環境衛生活動のしくみ	ゴミ処理と上下水道の整備の現状を理解し、問題点や対策について説明できる。			
		15th	食品衛生活動のしくみ	食品の安全を守るために行政や生産者が果たす役割について説明できる。			
		16th					
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	体育
<b>Course Information</b>					
Course Code	0105		Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	なし/なし				
Instructor	Arai Osamu, Nakashima Hajime				
<b>Course Objectives</b>					
1. 互い協力し合い、主体的に運動に参加できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる 3. 安全に留意して運動や活動ができる。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を判断し、適切に働きかけながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につける事ができない。
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、安全に留意して行動できない。
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、運動自体を楽しみながら、各運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図ることに重点を置く。				
Style	各種目のルールを説明、基本的な技能の習得、ゲームの実践と段階的に競技を行なう。				
Notice	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		2nd	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		3rd	バレーボール	サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		4th	バレーボール	サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		5th	バレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6th	バレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7th	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
		8th	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
	2nd Quarter	9th	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		10th	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		11th	バスケットボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12th	バスケットボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13th	体育大会（前期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14th	体育大会（前期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15th	体育大会（前期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16th			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	バドミントン	バドミンントンのルールを理解し説明できる。	
		2nd	バドミントン	バドミンントンのルールを理解し説明できる。	
		3rd	バドミントン	サービス、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		4th	バドミントン	サービス、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		5th	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6th	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7th	卓球	卓球のルールを理解し説明できる。	
		8th	卓球	卓球のルールを理解し説明できる。	
	4th Quarter	9th	卓球	サービス、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		10th	卓球	サービス、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	

	11th	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	12th	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	13th	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14th	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15th	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16th		

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

Anan College		Year	2016	Course Title	美術・デザイン
<b>Course Information</b>					
Course Code	0106		Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	美術1 (光村図書) / デザイン基礎 (ダヴィッド社)				
Instructor	Koduki Kayo				
<b>Course Objectives</b>					
1. 観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。 2. 発想、構想、着想の表現ができる。 3. 材料、用具、技法の理解ができる。					
<b>Rubric</b>					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1		観察力、主題の表現、方法を工夫し、独自の世界観を作り出すことができる。	観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。	観察力、主題の表現、方法を工夫できない。	
到達目標2		発想、構想、着想の表現ができ、独自の世界観を作り出すことができる。	発想、構想、着想の表現ができる。	発想、構想、着想の表現ができない。	
到達目標3		材料、用具、技法の理解ができ、的確に扱うことができる。	材料、用具、技法の理解ができる。	材料、用具、技法の理解ができない。	
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	美術・デザインの専門分野で、創造活動を通して、人間・社会・自然で美的体験を豊かにし、美意識を深め、感性やアイデアを表現する。また、情報社会の中で、生活や文化・環境を思考しながら、工学デザインへの一歩として理解し、個性ある能力を高める。				
Style					
Notice	美術は自己をしっかりと見つめ、自分を表現する。身近な生活の中造形に興味を持ち、楽しむ。与えられた課題は最後まで取り組み、根気や忍耐力を発揮すること。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	1 美術・デザインの概念	美術・デザインの意識を理解して美術に取り組む心構えができる。	
		2nd	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。	
		3rd	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。	
		4th	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。	
		5th	3 ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。	
		6th	3 ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。	
		7th	3 ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。	
		8th	3 ポスターデザイン	ポスターデザインの目的を理解し、条件を把握し、発想し、色彩選択してポスターをデザインする。	
	2nd Quarter	9th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		10th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		11th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		12th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		13th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		14th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		15th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		16th	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	4 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		2nd	5 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	
		3rd	5 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	
		4th	5 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	

		5th	5 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。
		6th	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		7th	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		8th	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	4th Quarter	9th	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		10th	6 鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
		11th	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		12th	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		13th	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		14th	7 静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
		15th	8 美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。
		16th	8 美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	0	0	70	0	30	100
基礎的能力	0	0	70	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	日本語総合
<b>Course Information</b>					
Course Code	0107		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	高専日本語アビリティ I (阿南高専) / 常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				
Instructor	Nishikori Hirofumi				
<b>Course Objectives</b>					
1. 漢文に触れ、中国文化との関係を含む日本文化への理解を深め、親しむことができる。 2. 日本語で情報を収集・選択・構成することができる。 3. 日本語で論理的にコミュニケーションをとることができる。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	古文・漢文についてリズムや韻を味わい、大意を踏まえて暗唱することができる。		古文・漢文についてリズムや韻を味わい、暗唱することができる。		古文・漢文についてリズムや韻を味わい、大意を踏まえて暗唱することに欠ける。
評価項目2	日本語で情報を収集・選択し、論理的に構成することができる。		日本語で情報を収集・選択し、構成することができる。		日本語で情報を収集・選択し、構成することに欠ける。
評価項目3	表現スキルを効果的に用いて文章表現、及び発表ができる。		表現スキルを用いて文章表現、及び発表ができる。		表現スキルを用いて文章表現、及び発表することに欠ける。
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	日本語の表現に関する基礎知識を理解し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。				
Style	授業は、文章表現に関する学習・練習を基本とする。また、表現力・理解力を育むために漢字学習を行う。				
Notice	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2nd	文書作成（履歴書）	適切な言葉遣い、構成法を用いて、履歴書を作成することができる。	
		3rd	文書作成（履歴書）	適切な言葉遣い、構成法を用いて、履歴書を作成することができる。	
		4th	文書作成（履歴書）	適切な言葉遣い、構成法を用いて、履歴書を作成することができる。	
		5th	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、敬語を使用することができる。	
		6th	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、敬語を使用することができる。	
		7th	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、敬語を使用することができる。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	文書作成（通信文）	通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		10th	文書作成（通信文）	通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		11th	文書作成（通信文）	通信文の形式に則り、通信文を作成することができる。	
		12th	詩歌作成（短歌）	短歌の形式に則り、短歌を作成することができる。	
		13th	詩歌作成（短歌）	短歌の形式に則り、短歌を作成することができる。	
		14th	詩歌作成（俳句）	俳句の形式に則り、俳句を作成することができる。	
		15th	詩歌作成（俳句）	俳句の形式に則り、俳句を作成することができる。	
		16th	答案返却		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	古文（物語）	古文の語調を味わい、暗唱することができる。	
		2nd	古文（物語）	古文の語調を味わい、暗唱することができる。	
		3rd	古文（日記）	古文の語調を味わい、暗唱することができる。	
		4th	古文（紀行文）	古文の語調を味わい、暗唱することができる。	
		5th	発表（POPを用いた本の紹介）	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		6th	発表（POPを用いた本の紹介）	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		7th	発表（POPを用いた本の紹介）	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		8th	後期中間試験		
	4th Quarter	9th	発表（POPを用いた本の紹介）	POPを作成し、本の魅力を発表することができる。	
		10th	文章作成（超短文）	テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。	
		11th	文章作成（超短文）	テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。	

		12th	文章作成（超短文）	テーマに沿った効果的な短文を作成することができる。
		13th	漢文（漢詩）	漢文訓読の語調を味わい、暗唱することができる。
		14th	漢文（格言）	漢文訓読の語調を味わい、暗唱することができる。
		15th	漢文（格言）	漢文訓読の語調を味わい、暗唱することができる。
		16th	答案返却	

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	70	0	20	5	5	100
基礎的能力	70	0	20	5	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	倫理
<b>Course Information</b>					
Course Code	0108		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	【教科書】高等学校倫理(第一学習社) 【参考書】講義中に、適宜、紹介します。				
Instructor	Fujii Taketo				
<b>Course Objectives</b>					
1. 日本とは異なった外国文化等、倫理・思想に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 「ものづくり」に関する調査を通して、技術者と倫理との関係について基礎的な内容を説明できる。					
<b>Rubric</b>					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標 1		倫理・思想に関する基礎的な知識について詳細に説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、その概要を説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。	
到達目標 2		調査レポートの論旨が明快で、その内容について詳細に説明できる。	調査レポートがまとまっており、その内容について十分に説明できる。	調査レポートの論旨が明快でなく、その内容について十分に説明できない。	
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	我々人間は社会の中で生活している関係上、自己実現を果たしながら、なおかつ他者とうまく折り合いをつけてゆく必要があります。自己と他者との間の、共感できる点や異質な点について自分なりに考えるところに「倫理」が生まれます。本講義では、自己と他者との関係について自分で考えるための材料を提供してゆきたいと思います。また、「ものづくり」に関する調査を通して、技術者としての基本的倫理観について考えてもらいたいと思います。				
Style	基本的に教室での講義ですけれども、「ものづくり」に関する調査のときは、演習室で実施します。				
Notice	1. 成績評価とも関連しますが、講義で述べたことについて定期試験・中間試験で確認する方針なので、「講義をしっかり聴く」ことを心がけてほしいと思います。 2. 「ものづくり」に関する調査は、前期・後期にそれぞれ実施します（時期は適宜）。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	「倫理」とは？	本来の「倫理」について、説明できる。	
		2nd	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		3rd	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		4th	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		5th	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		6th	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		7th	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		8th	【前期中間試験】		
	2nd Quarter	9th	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		10th	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		11th	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		12th	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		13th	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		14th	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		15th	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		16th	【答案返却時間】		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	イスラム教	イスラム文化と現代の関係について、その概要を説明できる。	
		2nd	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		3rd	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		4th	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	
		5th	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	
		6th	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。	
		7th	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。	

4th Quarter	8th	【後期中間試験】	
	9th	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	10th	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	11th	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	12th	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	13th	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	14th	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	15th	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	16th	【答案返却時間】	

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	理科総合
<b>Course Information</b>					
Course Code	0109		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 4	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	1st	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:4 後期:4	
Textbook and/or Teaching Materials	総合物理 1 (数研)、化学基礎 (第一学習社)、地学基礎 (啓林館)、生物基礎 (数研)				
Instructor	Matsuo Toshihiro, Yamada Yohei, Yoshimura Hiroshi, Ota Naotomo				
<b>Course Objectives</b>					
<p>理工学基礎：工学、自然科学を対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。  物理：物体の運動に関してニュートンの3法則を用いた基本的な計算を行うことができる。  化学：身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できる。  地学：地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動について説明できる。  生物：生物の進化や多様性・生態系について理解するとともに、地球環境問題の原因や保全対策について説明できる。</p>					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
理工学基礎	工学、自然科学を対象とする量や単位について、原理を理解し、基本的な取り扱いができる。		工学、自然科学を対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。		工学、自然科学を対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができない。
物理	物理学の基礎事項について説明でき、ニュートンの法則を用いた定式化および計算を行うことができる。		物理学の基礎事項を理解し、ニュートンの法則を用いた初等的な計算を行うことができる。		物理学の基本事項を身につけておらず、ニュートンの法則を用いた初等的な計算を行うことができない。
化学	身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などを説明できる。		身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できる。		身の回りにおける物質やその変化・性質を理解するため、物質の構成などの基礎を理解できない。
地学	地球の表層や内部構造について説明でき、プレート境界での地震活動を説明できる。		地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動を説明できる。		地球の表層や内部構造について理解できず、プレート境界での地震活動を説明できない。
生物	生物の進化や多様性、生態系について理解し、持続可能な社会を目指すための環境保全活動ができる。		生物の進化や多様性、生態系について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる。		生物の進化や多様性、生態系について理解できず、環境問題の生物への影響や保全対策が理解できない。
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	理科の総合的学習を通じて、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然現象を科学的に解明するための見方、考え方を身につける。物理・化学・生物・地学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識・素養を身につけることを目的とする。				
Style	理工学基礎 (第1～2週)、地学・生物 (第3～7週)、物理・化学 (第9週以降) の順に授業を行う。				
Notice	地学、生物分野の成績評価についてはレポート課題によって行う。(各10%)				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	理工学基礎：有効数字	数値の取り扱い方を理解し、有効桁数を考慮した数値の計算ができる。	
		2nd	理工学基礎：数値と単位	数値の意味を理解し、種々の物理量に単位をつけることができる。	
		3rd	地学：宇宙と地球	地学：地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。	
			生物：生物進化と生物多様性	生物：生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		4th	地学：宇宙と地球	地学：地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。	
			生物：生物進化と生物多様性	生物：生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		5th	地学：大気と海洋	地学：地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。	
			生物：生物進化と生物多様性	生物：生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
6th	地学：大気と海洋	地学：地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。			
	生物：人間活動と地球環境の保全	生物：生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる			
7th	地学：大気と海洋	地学：地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。			
	生物：人間活動と地球環境の保全	生物：生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる			
8th	中間試験				

2nd Semester	2nd Quarter	9th	物理：変位・速度・加速度 化学：物質の成分	物理：変位・速度・加速度の定義を説明できる 化学：混合物と純物質の違い、混合物を分離・生成する方法を説明できる。
		10th	物理：変位・速度・加速度 化学：物質の成分	物理：平面運動の変位が説明できる 化学：化合物と単体、同素体、物質の三態などの用語を説明できる。
		11th	物理：変位・速度・加速度 化学：原子の構造	物理：相対速度の問題が解ける 化学：原子の構造、電子配置の考え方を説明できる。
		12th	物理：変位・速度・加速度 化学：原子の構造・周期表	物理：等加速度直線運動の公式を運用して問題が解ける 化学：周期表と電子配置の関係を説明できる。
		13th	物理：落体の運動 化学：周期表	物理：自由落下、鉛直投射の問題が解ける 化学：族と周期、金属元素と非金属元素などの語句を説明できる。
		14th	物理：落体の運動 化学：化学結合	物理：水平・射法投射の問題が解ける 化学：化学結合の概要を説明できる。
		15th	物理：いろいろな力 化学：イオン化、イオン結合	物理：重力や弾性力、摩擦力の性質を説明できる 化学：イオン化の生成やイオン化の際に必要なエネルギーを説明できる。イオン結合と説明でき、組成式が記述できる。
		16th	期末試験返却	
	3rd Quarter	1st	物理：力のつりあい 化学：共有結合	物理：図を用いて力のつりあいの式をたてることができる 化学：共有結合の原理を説明できる。分子模型を用いて簡単な分子を組み立てることができる。
		2nd	物理：運動の法則 化学：共有結合	物理：慣性の法則を説明できる 化学：簡単な物質の電子式と構造式が書ける。
		3rd	物理：運動の法則 化学：配位結合・分子の極性	物理：運動方程式をたてることができる 化学：配位結合と分子の極性を説明できる。
		4th	物理：運動の法則 化学：分子間の結合	物理：作用・反作用の法則を説明できる 化学：分子結晶の特徴を説明できる。極性分子間に働く力を説明できる。
		5th	物理：運動の法則 化学：物質質量	物理：簡単な系に対して運動方程式をたてることができる 化学：原子量、分子量、式量の考え方を説明できる。
		6th	物理：運動の法則 化学：物質質量	物理：斜面上の物体の運動方程式をあつかえる 化学：物質質量を用いた簡単な計算ができる。
		7th	物理：運動の法則 化学：化学反応式	物理：2物体の運動方程式をあつかえる 化学：化学反応式の係数を決定できる。簡単な化学反応式が書ける。
		8th	中間試験	
4th Quarter	9th	物理：摩擦を受ける運動 化学：化学反応式	物理：静止摩擦力と最大摩擦力を説明できる 化学：化学反応式の量的関係に関する簡単な計算問題が解ける。	
	10th	物理：摩擦を受ける運動 化学：化学反応式	物理：動摩擦力を説明できる 化学：化学反応式の量的関係に関する簡単な計算問題が解ける。	
	11th	物理：液体や気体から受ける力 化学：酸と塩基	物理：圧力、浮力を説明できる 化学：酸と塩基の定義を説明できる。	
	12th	物理：液体や気体から受ける力 化学：酸と塩基	物理：空気の抵抗を受ける運動の終端速度を求められる 化学：簡単なpHの計算問題が解ける。	
	13th	物理：剛体に働く力のつりあい 化学：酸と塩基	物理：力のモーメントを説明できる 化学：中和滴定の操作の原理を説明できる。	
	14th	物理：剛体に働く力のつりあい 化学：酸と塩基	物理：剛体のつりあいの式をたてることができる 化学：中和滴定実験を行うことができる。	
	15th	物理：剛体に働く力のつりあい 化学：酸と塩基	物理：重心を説明できる 化学：中和滴定曲線や指示薬の選択について簡単な説明ができる。	
	16th	期末試験返却		

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート課題	その他	Total
--	------	------	--------	-----	-------

Subtotal	50	0	20	30	100
基礎的能力	40	0	20	0	60
專門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	30	40

Anan College		Year	2016	Course Title	英語A
<b>Course Information</b>					
Course Code	0110	Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture	Credits	School Credit: 2		
Department	Liberal Arts and Sciences	Student Grade	1st		
Term	Year-round	Classes per Week	前期:2 後期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	高校総合英語 Harvest 3rd Edition アプローチノート付、暗証例文付 鈴木希明 桐原書店/Sonic Reading Stage1 のとう修 桐原書店				
Instructor	Taninaka Toshihiro				
<b>Course Objectives</b>					
1. 教科書で学ぶ基本的な英文法の概念を理解できる。 2. 教科書で学ぶ基本的な英文法の知識を応用できる。 3. 文全体の意味を把握しながら、必要な情報を見つけることのできる速読力を身に着ける。 4. 教科書で学習した語彙・熟語を理解し、運用できる。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解し、説明できる。	教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解できる。	教科書などの教材で学習した文法を適切に文脈の中で理解することが困難である。		
評価項目2	教科書などの教材で学習した文法知識を応用して、100語程度の英作文ができるようになる。	教科書などの教材で学習した文法知識を応用して、1文単位で簡単な英作文ができる容認ある。	教科書などの教材で学習した文法知識を応用することが困難である。		
評価項目3	300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだし、要点をまとめることができる。	300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだせる。	300語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだすことが困難である。		
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	英文法の理解を通じて英語基礎力を固め、英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に伸ばす。また、速読演習を通して読解力を向上させるとともに語彙力を増強させる。				
Style					
Notice	1. プリント類やノートを日頃からキチンと整理しておくこと。（専用ファイルを用意することが望ましい） 2. 授業には必ず辞書（電子辞書可）を持ってくること。 3. 提出物の期限は厳守すること。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション	シラバスの内容及び学習方法を理解する。	
		2nd	英語の語順	各文法項目の概念を理解する。	
		3rd	英語の語順	各文法項目の概念を理解する。	
		4th	時制	各文法項目の概念を理解する。	
		5th	時制	各文法項目の概念を理解する。	
		6th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		7th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	完了形	各文法項目の概念を理解する。	
		10th	完了形	各文法項目の概念を理解する。	
		11th	助動詞	各文法項目の概念を理解する。	
		12th	助動詞	各文法項目の概念を理解する。	
		13th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		14th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		15th	前期末試験		
		16th			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	受動態	各文法項目の概念を理解する。	
		2nd	受動態	各文法項目の概念を理解する。	
		3rd	不定詞	各文法項目の概念を理解する。	
		4th	不定詞	各文法項目の概念を理解する。	
		5th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		6th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		7th	後期中間試験		
		8th	動名詞	各文法項目の概念を理解する。	
	4th Quarter	9th	動名詞	各文法項目の概念を理解する。	
		10th	分詞	各文法項目の概念を理解する。	
		11th	分詞	各文法項目の概念を理解する。	
		12th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		13th	Sonic Reading Stage1	英文速読を通して速読力を強化する。	
		14th	学年末試験		
		15th	答案返却		

		16th					
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	基礎数学 2
<b>Course Information</b>					
Course Code	0201	Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture	Credits	School Credit: 4		
Department	Liberal Arts and Sciences	Student Grade	2nd		
Term	Year-round	Classes per Week	前期:4 後期:4		
Textbook and/or Teaching Materials	「高等学校 数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程チャート式基礎と演習 II + B」、微分積分-改- (裳華房)、「はぎ取り式練習ドリル II、Ⅲ」(数研出版)				
Instructor	Nishimori Yasuhito, Kushida Masahiro, Tagami Takanori				
<b>Course Objectives</b>					
1. 整式の四則演算ができる。 2. 複素数の概念を理解し、その計算ができる。 3. 2次方程式や高次方程式を解くことができる。 4. 微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。また、増減表からグラフ描画と極値を求めることができる。 5. 不定積分と定積分の計算が確実にできる。また定積分を使って面積を求めることができる。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	3次式以上の複雑な整式の四則演算ができる。	整式の四則演算ができる。	整式の四則演算ができない。		
評価項目2	複素数の複雑な計算ができる。	複素数の概念を理解し、その計算ができる。	複素数の概念を理解できない。また、複素数の計算ができない。		
評価項目3	複雑な2次方程式や高次方程式を解くことができる。	2次方程式や高次方程式を解くことができる。	2次方程式や高次方程式を解くことができない。		
評価項目4	複雑な合成関数の極限や微分を計算することができる。	極限と微分の計算が確実にできる。	極限や微分の計算ができない。		
評価項目5	方程式の解の個数を、増減表を用いて特定することができる。	微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。増減表をもとにグラフが作図できる。	微分を使って接線の方程式を求めることができない。増減表を作ることができない。		
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、高専数学での最重要事項である各種関数の取り扱い方、方程式の解き方、微分と積分の計算とその応用方法について学習する。				
Style	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。				
Notice	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	3次式の展開と因数分解	3次の展開公式を使って、式を展開することができる。また、3次式の因数分解の公式を使って因数分解できる。	
		2nd	二項定理とパスカルの三角形	二項定理を使って展開できる。また、パスカルの三角形を書くことができ、対応する多項式の係数を求めることができる。	
		3rd	整式の割り算と分数式の四則演算	整式の割り算と、分数式の四則演算ができる。	
		4th	恒等式	恒等式を理解できる。また、恒等式の両辺を比較して係数を求めることができる。	
		5th	複素数とその基本性質およびその四則演算	複素数を理解できる。また、その四則演算ができる。	
		6th	2次方程式の解の公式と判別式	2次方程式の解の公式を使って、虚数解を求めることができる。また、判別式を計算し、2次方程式の解の種類を判別することができる。	
		7th	剰余の定理と因数定理	剰余の定理を使って、整式を整式で割ったときの余りを求めることができる。また、因数定理を使って因数分解することができる。	
	8th	高次方程式の因数分解	因数定理を使って高次方程式を因数分解し、方程式の解を求めることができる。		
	2nd Quarter	9th	前期中間試験		
		10th	関数の極限と微分係数	関数の極限を求めることができる。また平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。	
		11th	簡単な関数の微分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の微分ができる。またそれらのグラフ上の接線を求めることができる。	
		12th	関数の値の変化	関数の増減表を書くことができる。これを利用して極大値や極小値を求めることができ、関数の概形を描くことができる。	
		13th	不定積分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の不定積分ができる。	
		14th	定積分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の定積分ができる。	
		15th	定積分と面積	定積分を使って、二つの曲線の間の面積を求めることができる。	

		16th	期末試験返却	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	分数関数の極限	収束、発散、無限大の概念を理解できる。また、分数式の極限を求めることができる。
		2nd	指数関数を含む分数関数の極限	指数関数の含む分数関数の極限を求めることができる。
		3rd	積の微分	関数fと関数gの積である関数fgの微分ができる。
		4th	商の微分	関数fと関数gの商である関数f/gの微分ができる。
		5th	合成関数の微分	関数 f と関数gの合成関数である関数f○gの微分ができる。
		6th	やや複雑な関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な関数を微分することができる。
		7th	三角関数の極限	三角関数の極限を計算することができる。
		8th	後期中間試験	
	4th Quarter	9th	三角関数の微分	三角関数の微分ができる。
		10th	三角関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な三角関数の微分ができる。
		11th	対数関数・指数関数	自然対数の基本的な計算ができる。
		12th	対数関数の微分	対数関数の微分ができる。
		13th	対数関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な三角関数の微分ができる。
		14th	指数関数の微分	指数関数の微分ができる。
		15th	指数関数の微分	積、商、合成関数に関する微分公式を使って、指数関数の微分ができる。
		16th	期末試験返却	

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	90	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	数学B
<b>Course Information</b>					
Course Code	0202		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	「高等学校 数学B」岡部恒治ほか著 数研出版/「新課程チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」				
Instructor	Kushida Masahiro, Yamada Kohtarō				
<b>Course Objectives</b>					
1.ベクトルの基本的な計算ができる。 2.平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 3.平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。 4.平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。 5.等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、 $\Sigma$ の計算ができる。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	やや複雑なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		ベクトルの和・差・定数倍の計算ができない。
評価項目2	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、複雑な計算ができる。		平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。		平面または空間ベクトルの成分表示ができない、または、基本的な計算ができない。
評価項目3	平面および空間ベクトルの内積を求めることができ、内積を用いてベクトルの大きさが計算できる。		平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。		平面または空間ベクトルの内積を求めることができない。
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	数学は工業高校において根幹となる科目である。本授業では、平面および空間のベクトルの概念を学習し、基本的なベクトルの計算方法を習得する。数列では規則に従って並ぶ数やその和、および漸化式概念を学習する。				
Style					
Notice	1. 授業に集中し、効果的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	ベクトルの意味	平面上のベクトルの概念を理解するとともに、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解する。	
		2nd	ベクトルの演算	平面上のベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	
		3rd	ベクトルの平行とベクトルの分解	1つのベクトルと同じ向き単位ベクトルを式で表現して利用できる。有向線分表示されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。	
		4th	ベクトルの成分	平面上のベクトルが2つの実数の組として表されることを理解し、大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	
		5th	ベクトルの内積(1)	ベクトルの内積を求めることができ、ベクトルのなす角を求めることができる。	
		6th	ベクトルの内積(2)	ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。	
		7th	ベクトルと平面図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	平面上の直線(1)	平面上の直線の方程式を求めることができる。	
		10th	平面上の直線(2)	ベクトルを用いて平面上の直線の方程式を求めることができる。	
		11th	円	平面上の円の方程式を求めることができる。	
		12th	空間の座標	座標空間を理解し、点の座標、2点間の距離を求めることができる。	
		13th	空間のベクトル	成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	
		14th	空間のベクトルの内積	空間ベクトルの内積を求めることができ、平行・垂直条件を利用することができる。	
		15th	演習		
		16th	前期末試験		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	ベクトルと空間図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。	
		2nd	空間内の直線	空間内の直線の方程式を求めることができる。	
		3rd	空間内の平面	空間内の平面の方程式を求めることができる。	
		4th	球	球の方程式を求めることができる。	
		5th	数列と一般項	数列の定義、表記について理解し、数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。	
		6th	等差数列	初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	

4th Quarter	7th	等差数列の和	等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。
	8th	後期中間試験	
	9th	等比数列	初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。
	10th	等比数列の和	等差数列の一般項やその和を求めることができる。 等比数列の一般項やその和を求めることができる。
	11th	和の記号 $\Sigma$	記号 $\Sigma$ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。
	12th	総和の計算	第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。
	13th	いろいろな数列の和	等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。
	14th	漸化式	漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。
	15th	等差数列・等比数列の漸化式	等差数列・等比数列の漸化式から一般項を求めることができる。
	16th	学年末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	Total
Subtotal	90	90
基礎的能力	90	90
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	日本語総合
<b>Course Information</b>					
Course Code	0203		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	高専日本語アビリティ I・II (阿南高専) / 級別漢字学習帳7級~2級 (東京法令出版)				
Instructor	Tsuboi Taiji				
<b>Course Objectives</b>					
1.構成や表現技術を活用し、意見を述べることができる。 2.鑑賞の技法を活用し、文学的文章を鑑賞できる。 3.論理性と効果を意識した口頭表現ができる。					
<b>Rubric</b>					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1		構成や表現技術を活用し、論理的に意見に述べられる。	構成や表現技術を活用し、意見を述べられる。	論理的文章の構成や表現技術を活用して意見を述べられない。	
到達目標2		鑑賞技法を活用し、多角的に文学的文章を鑑賞できる。	鑑賞技法を活用し、文学的文章を鑑賞できる。	鑑賞技法を活用して文学的文章を鑑賞できない。	
到達目標3		論理的、かつ、効果的に口頭表現できる。	論理性と効果を意識し、口頭表現できる。	論理性と効果を意識して口頭表現できない。	
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	日本語の表現に関する基礎知識・技術を理解し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。				
Style	授業は、文章表現および口頭表現に関する学習・練習を基本とする。また、小説・詩の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、評論読解や漢字学習により理解や表現の力を培う。				
Notice	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること(漫画、雑誌、テキストを除く)。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2nd	表現法①	文末表現、修辭法(比喩的修辭)を活用して、表現できる。	
		3rd	表現法②	修辭法(比喩的修辭以外のもの)を活用して、表現できる。	
		4th	表現法③	設疑法、反語法を活用して、表現できる。	
		5th	小説の鑑賞①	鑑賞技法(著者背景)を活用して、『山月記』を、鑑賞できる。	
		6th	小説の鑑賞②	鑑賞技法(作品背景、主人公の言動・心理)を活用して、『山月記』を、鑑賞できる。	
		7th	小説の鑑賞③	鑑賞技法(構成;対比・展開、背景描写)を活用して、『山月記』を、鑑賞できる。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	文章表現①	読書感想文のテンプレートについて、論文との違いを説明できる。	
		10th	文章表現②	既習の表現法を活用して、読書感想文を執筆できる。	
		11th	文章表現③	既習の表現法を活用して、読書感想文を執筆し、相互に助言できる。	
		12th	文章表現④	既習の表現法を活用して、読書感想文を執筆し、助言に対応してよりよい表現をできる。	
		13th	表現法④	構成法(3段構成)と接続の言葉を活用して、表現できる。	
		14th	表現法⑤	設疑法、反語法や文末表現等の表現法に留意して表現し、相互に助言できる。	
		15th	表現法⑥	設疑法、反語法や文末表現等の表現法に留意して表現し、助言に対応してよりよい表現をできる。	
		16th	答案返却	学習のまとめ	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	評論読解①	評論の構造を理解し、読解の方法を説明できる。	
		2nd	評論読解②	評論(時事ニュース)を読解し、要約および意見提示できる。	
		3rd	評論読解③	評論(時事ニュース)を読解し、要約および意見提示できる。	
		4th	評論読解④	評論(時事ニュース)を読解し、要約および意見提示できる。	
		5th	スピーチ①	文章表現との違いに留意し、スピーチ技法を説明し、構成シートを作成できる。	
		6th	スピーチ②	練習スピーチによりスピーチskillを理解し、改善のポイントを説明できる。	
		7th	スピーチ③	スピーチskillを適切に活用し、効果的にスピーチできる。	

4th Quarter	8th	中間試験	
	9th	詩の鑑賞①	鑑賞技法（小説との共通点、違い）を活用して『初恋』を鑑賞できる。
	10th	詩の鑑賞②	近代文学史概観を理解し、詩を鑑賞できる。
	11th	詩の鑑賞③	既習の表現法および詩特有の表現法をふまえ、詩を鑑賞できる。
	12th	詩の鑑賞④	既習の表現法および詩特有の表現法をふまえ、詩を鑑賞し、暗唱できる。
	13th	CMコピーの分析①	既習の表現法を整理し、説明できる。
	14th	CMコピーの分析②	既習の表現法を活用し、CMコピーを分析できる。
	15th	まとめ	到達目標に照らし、学習内容を点検し、整理できる。
	16th	答案返却	学習のまとめ

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	80	0	10	5	5	100
基礎的能力	80	0	10	5	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	英語 2
<b>Course Information</b>					
Course Code	0204		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	POLESTAR English Communication II (数研) / POLESTAR English Communication II ナビゲーションノート//フェイバリット英単語・熟語(テーマ別)コーパス3000 New Edition(東京書籍)				
Instructor	Fujii Hiromi				
<b>Course Objectives</b>					
1.200~300語の英文を読んで、その内容を正確に理解できる。 2.教科書で取り上げた英文題材を聞いて、その内容を理解できるとともに、英文を音読できる。 3.教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を理解できる。					
<b>Rubric</b>					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1		200~300語の英文を読んで、その内容や文の構造を正確に理解し、自ら運用できる。	200~300語の英文を読んで、その内容や文の構造を正確に理解できる。	200~300語の英文を読んで、その内容や文の構造を理解しようとしていない。	
到達目標2		既習の英文を聞いてその内容を理解し、十分な速さでシャドーウィングできる。	既習の英文を聞いてその内容を理解し、流暢に音読できる。	既習の英文を聞いてその内容を理解はできるが、音読は困難である。	
到達目標3		教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を正確に理解し、自ら運用できる。	教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を正確に理解できる。	教科書で取り上げた題材にある重要語句・重要表現・重要文法を正確に理解しようとしていない。	
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	さまざまなジャンルの英語題材の読解を通して、英文読解力を身につけるとともに、英語構文力・語彙力など英語の総合的運用能力の向上を目指す				
Style					
Notice	英検準2級以上、工業英検3級以上の取得を期待する。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション Lesson 1 Japan Through Foreign Eyes	シラバスの内容を理解する。 英文の内容を理解する。 英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		2nd	Lesson 1 Japan Through Foreign Eyes	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		3rd	Lesson 1 Japan Through Foreign Eyes	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		4th	Lesson 3 Table for Two -Helping Others as you Eat	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		5th	Lesson 3 Table for Two -Helping Others as you Eat	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		6th	Lesson 3 Table for Two -Helping Others as you Eat	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		7th	Review	既習事項を確認する	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	Lesson 4 Hayabusa - The Miraculous Return	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		10th	Lesson 4 Hayabusa - The Miraculous Return	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		11th	Lesson 4 Hayabusa - The Miraculous Return	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		12th	Lesson 5 Isamu Noguchi - Artistic Genius	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		13th	Lesson 5 Isamu Noguchi - Artistic Genius	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		14th	Lesson 5 Isamu Noguchi - Artistic Genius	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		15th	Review	既習事項を確認する	
		16th	前期末試験		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	Lesson 6 The Miracle Curitiba	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		2nd	Lesson 6 The Miracle Curitiba	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		3rd	Lesson 6 The Miracle Curitiba	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	
		4th	Lesson 8 Nelson Mandela and the Springboks	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。	

4th Quarter	5th	Lesson 8 Nelson Mandela and the Springboks	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	6th	Lesson 8 Nelson Mandela and the Springboks	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	7th	Review	既習事項を確認する
	8th	後期中間試験	
	9th	Lesson 9 The Most Advanced Water	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	10th	Lesson 9 The Most Advanced Water	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	11th	Lesson 9 The Most Advanced Water	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	12th	Lesson 10 Donald Keene - Opening a Window on Japanese Culture	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	13th	Lesson 10 Donald Keene - Opening a Window on Japanese Culture	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	14th	Lesson 10 Donald Keene - Opening a Window on Japanese Culture	英文の内容を正確に捉えるとともに、英文構造に着目し、Key Languageを正確に理解する。
	15th	Review	既習事項を確認する
	16th	学年末試験 期末試験返却	

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	60	15	20	0	5	100
基礎的能力	60	15	20	0	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	英語B
Course Information					
Course Code	0205		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	ラーナーズ高校英語(数研出版)、Reading In 1(センゲージラーニング株式会社)、HyperListening Elementary(桐原書店)				
Instructor					
Course Objectives					
1. 文法教科書で学ぶ基本的な英文法の概念や英語構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、説明できる。 2. 学習した英文法の知識を応用して、文法的に正しい1文単位の簡単な英作文をすることができる。 3. 200~250語程度の英文を速読しながら全体の流れを把握し、必要な情報を探し出すことができる。					
Rubric					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		基本的な英文法の概念や構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、正確に説明できる。	基本的な英文法の概念や構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、ほぼ正確に説明できる。	基本的な英文法の概念や構文の理解が不十分で、文法用語を用いた英文の分析や説明ができない。	
評価項目2		学習した英文法の知識を応用して、文法的に正しい1文単位の簡単な英作文ができる。	学習した英文法の知識を応用して、文法的にほぼ正しい1文単位の簡単な英作文ができる。	英文法の知識が不十分で、文法的に正しい1文単位の英作文ができない。	
評価項目3		200~250語程度の英文を速読しながら内容を把握し、制限時間内に必要な情報を探し出せる。	200~250語程度の英文を速読しながら内容をほぼ把握し、時間をかければ必要な情報の80%を探し出せる。	200~250語程度の英文を時間をかけて読んでも、探し出せる必要な情報は80%未満である。	
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	英語Aで学んだ基本事項に引き続き英文法を体系的に学び、英語基礎力を固める。並行して速読演習、聴解演習も行い、総合的に英語力を向上させる。				
Style	各文法項目の解説を聞き、練習問題、英作文問題に取り組む。また、定期的に速読演習、聴解演習も行う。				
Notice	1. 配布プリントは必ずファイルに綴じること。 2. 授業には必ず辞書を持ってくること。 3. 下記授業計画以外に小テストや提出課題を課すことがある。				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション	シラバスの内容を理解する。	
		2nd	比較 I Reading In 1	(1) 比較の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
		3rd	比較 II HyperListening Elementary	(1) 比較の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
		4th	比較 III Reading In 1	(1) 比較の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
		5th	関係詞 I HyperListening Elementary	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
		6th	関係詞 II Reading In 1	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
		7th	関係詞 III HyperListening Elementary	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
		8th		前期中間試験	

2nd Quarter	9th	関係詞Ⅳ Reading In 1	(1) 関係詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
	10th	仮定法Ⅰ HyperListening Elementary	(1) 仮定法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
	11th	仮定法Ⅱ Reading In 1	(1) 仮定法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
	12th	仮定法Ⅲ HyperListening Elementary	(1) 仮定法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
	13th	語法 Reading In 1	(1) 語法の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
	14th	否定 HyperListening Elementary	(1) 否定の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。	
	15th	前期の復習	(1) 前期に学習した文法項目の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。	
	16th	前期末試験返却		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	強調・倒置・省略 Reading In 1	(1) 強調・倒置・省略の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		2nd	無生物主語・名詞構文 HyperListening Elementary	(1) 無生物主語・名詞構文の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		3rd	前置詞 Reading In 1	(1) 前置詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		4th	接続詞 HyperListening Elementary	(1) 接続詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		5th	疑問詞 Reading In 1	(1) 疑問詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		6th	名詞・冠詞 HyperListening Elementary	(1) 名詞・冠詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		7th	代名詞 Reading In 1	(1) 代名詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
		8th	後期中間試験	

4th Quarter	9th	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
	10th	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 Reading In 1	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
	11th	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
	12th	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 Reading In 1	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
	13th	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
	14th	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 Reading In 1	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 200~250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
	15th	さまざまな表現と品詞 文法総合演習 HyperListening Elementary	(1) さまざまな表現と品詞の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。 (2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文(1文単位)を作成できる。 (3) 短い英語の会話文やアナウンス等を聞き、必要な情報をほぼ探し出すことができる。
	16th	学年末試験返却	

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	60	10	20	0	10	100
基礎的能力	60	10	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	英会話
<b>Course Information</b>					
Course Code	0206		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	Q Skills for Success: Listening and Speaking, OUP				
Instructor	Christopher Prowant				
<b>Course Objectives</b>					
This course is designed to develop listening and speaking skills for English conversation by providing critical thinking opportunities which enable students to practice using an open-ended lecture format. Knowledge of English vocabulary, expressions and grammar is applied to real life situations. Composition and comprehension activities are also utilized in order to continue developing conversation fluency.					
<b>Rubric</b>					
		Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)	
Evaluation 1		Students are able to converse smoothly with one another and the native teacher.	Students can answer a question or make a comment in a few words and speak freely in a group.	Students cannot understand the majority of exercises and activities and cannot speak easily.	
Evaluation 2		Students speak their opinions directly and utilize critical thinking skills in English.	Students can answer the majority of questions, listen attentively and write their ideas clearly.	Students remain passive, do not express themselves and cannot comprehend the lecture.	
Evaluation 3		Students can take notes entirely in English and can present their ideas clearly and concisely.	Students can take notes in Japanese and grasp the main idea of the lecture but not the details.	Students can take notes in Japanese and do not understand the majority of the lecture.	
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	This course focuses on listening and speaking skills for Basic English conversation. Critical thinking opportunities aid students in processing new information and the application of that knowledge is related to real life situations through dialogue practice. Composition and comprehension activities are also utilized.				
Style	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Develop listening skills and communication strategies using native English conversation.</li> <li>2. Gain confidence in speaking and listening and perfect compositional writing and critical reading skills.</li> <li>3. Improve communication skills in order to smoothly engage in conversations with foreign people.</li> <li>4. Engage in cultural awareness and open-mindedness to others using cultural comparisons.</li> </ol>				
Notice	<p>Students will come to class prepared.</p> <p>Students using a cellphone in class equals one tardiness on the first warning.</p> <p>Students will not sleep in the class.</p> <p>Students will be enthusiastic and enjoy themselves.</p>				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	Introduction	Verbal output, participation experience	
		2nd	Unit 1 Names	Speaking practice, cultural awareness	
		3rd	Interview a classmate and introduce him or her to the class	Pronunciation, speed, fluency	
		4th	Unit 2 Work	Cultural awareness, goal setting	
		5th	Write interview questions and role-play a job interview	Critical thinking, natural expressions, pronunciation	
		6th	Unit 3 Long Distance	Listening practice, cultural awareness	
		7th	Give a presentation about customs in a culture	Cultural analysis by comparison, information gathering	
		8th	Midterm Exam		
	2nd Quarter	9th	Discussion of effective debate and argument tactics	Listening practice, speaking pronunciation, speed, fluency	
		10th	Unit 4 Positive Thinking	Social awareness: individual vs collective societies	
		11th	Participate and facilitate a group discussion	Critical thinking, natural expressions, pronunciation	
		12th	Unit 5 Vacation Time	Cultural awareness, group communication activities	
		13th	Give a presentation about a tour to a popular tourist destination	Domestic social awareness, pronunciation, speed, fluency	
		14th	Unit 6 Laughter	Cultural communication comparison, ice breaking	
		15th	Use appropriate eye contact, tone of voice, etc. to tell a story fluently	Body language, vocal pronunciation, tone, volume, fluency	
		16th	Final Exam and Review		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	Review / Discussion	Additional output / participation experience	
		2nd	Unit 7 Music	Critical thinking, natural expressions, pronunciation	

		3rd	A group interview will be held	Listening practice, speaking pronunciation, speed, fluency
		4th	Unit 8 Honesty	Cultural awareness, group communication activities
		5th	Conduct and survey to gather opinions on honesty and dishonesty	Social awareness: household and school rules comparison
		6th	Unit 9 Life Changes	Listening practice, critical thinking and expressing opinions clearly
		7th	Deliver a presentation providing instructions	Logic, clarity, organization in addition to pronunciation, fluency
		8th	Midterm Exam	
	4th Quarter	9th	Cultural exchange activity imagine studying abroad	Cultural awareness, collective goal achievement
		10th	Unit 10 Fear	Social awareness: solutions to danger in societal situations
		11th	Use phrases to describe emotions and experiences	Team work, use of informal expressions, pronunciation
		12th	Unit 11 Diversity	Cultural awareness, communication comparisons
		13th	Lead a discussion on the stereotypes and multiculturalism	Cultural analysis by comparison, information gathering
		14th	Unit 12 Global Community	Listening practice, speaking pronunciation, speed, fluency
		15th	Facilitate awareness of cultural differences	Wrap up critical awareness, review expressions
		16th	Final Exam and Review	

**Evaluation Method and Weight (%)**

	Examination	Presentation	Quiz	Assignments	Other	Total
Subtotal	60	10	10	15	5	100
Basic Ability	60	10	10	15	5	100
Technical Ability	0	0	0	0	0	0
Interdisciplinary Ability	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	物理
Course Information					
Course Code	0207		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	総合物理 1 (数研出版)、リードα (数研出版)				
Instructor	Sonoda Akihiko,Hirayama Motoi				
Course Objectives					
物理学の学習を通じて自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。 さらに、物理学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識であることを認識する。					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則を表す式をたて、それを用いて物体の運動を決定することができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができる		物体の基本的な運動において力学的エネルギー保存則を表す式を立てることができない
運動量と力積	運動方程式から運動量と力積の関係を説明でき、それらを用いて運動の諸量を求めることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができる		運動量や力積を用いて速度の変化や加えられた力を求めることができない
円運動・単振動	円運動と単振動の関係を説明でき、お互いの問題解決に利用することができる		円運動や単振動に関する基本的な問題を扱うことができ、周期などの物理量を求めることができる		円運動や単振動に関する基本的な問題が扱えず、周期などの物理量を求めることができない
熱量の保存	熱量の保存を用いて物体の比熱を求めることができ、熱と仕事の関係を説明できる		熱量の保存を用いて物体の比熱を求めることができる		熱量の保存則を用いて物体の熱容量や比熱を求めることができない
熱力学第一法則	熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、気体にした仕事や加えた熱量、温度変化を計算できる		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明できる		熱力学第一法則により気体の状態変化を説明できない
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術の基礎としてあらゆる分野に使われている。 本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。 2年では、力学、熱力学を中心に学習する。				
Style	予習・講義・演習・復習・小テストで自分の理解度を確認しながら学習を進めてください。なお、本講義は前期開講の「物理実験・演習」とリンクしています。				
Notice					
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス 仕事とエネルギー	仕事とエネルギーの関係について説明できる。	
		2nd	運動エネルギー	運動エネルギーを計算できる。	
		3rd	位置エネルギー	種々の位置エネルギーを計算できる。	
		4th	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則を使って問題を解くことができる。	
		5th	運動量と力積	運動量と力積を計算できる。	
		6th	運動量保存則	運動量保存則を使って問題を解くことができる。	
		7th	反発係数	反発係数を計算できる。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	円運動	角速度を使って変位や速度等を計算できる。	
		10th	円運動の加速度	円運動における加速度や向心力を計算できる。	
		11th	慣性力	慣性力を求めることができる。	
		12th	遠心力	遠心力を計算できる。	
		13th	単振動	単振動の式を理解できる。	
		14th	単振り子	単振り子の周期を導出できる。	
		15th	万有引力	万有引力の法則を理解できる。	
		16th	前期末試験		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	熱とエネルギー	仕事とエネルギーの関係を説明できる。	
		2nd	熱とエネルギー	仕事とエネルギーの関係を説明できる。	
		3rd	気体の法則	気体の法則を用いて気体の状態を計算できる。	
		4th	気体分子の運動	気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる。	
		5th	気体分子の運動	気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる。	
		6th	気体の状態変化	熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる。	

4th Quarter	7th	不可逆変化と熱機関	熱が関与する変化は一般に不可逆であることを説明できる。
	8th	後期中間試験	
	9th	波の伝わり方と種類	波の波長、周期、振動数、速さについて説明できる。横波と縦波の違いについて説明できる。
	10th	重ね合わせの原理と波の干渉	波の重ね合わせの原理と波の独立性を理解できる。また、定常波の特長について説明できる。
	11th	波の反射、屈折、回折	ホイヘンスの原理を理解し、波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。
	12th	波の反射、屈折、回折	ホイヘンスの原理を理解し、波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。
	13th	音波、発音体	弦や発音体の固有振動数を求めることができる。
	14th	ドップラー効果	一直線上の運動におけるドップラー効果の音の振動数変化を計算できる。
	15th	光波	波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを理解している。
	16th	学年末試験	

#### Evaluation Method and Weight (%)

	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	60	10	20	0	10	100
基礎的能力	40	10	10	0	10	70
専門的能力	20	0	5	0	0	25
分野横断的能力	0	0	5	0	0	5

Anan College		Year	2016	Course Title	物理実験・演習	
<b>Course Information</b>						
Course Code	0208		Course Category	General / Compulsory		
Class Format	実験・実習		Credits	School Credit: 1		
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd		
Term	First Semester		Classes per Week	前期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	総合物理 1 (数研出版)、リードα (数研出版)					
Instructor	Sonoda Akihiko, Hirayama Motoi					
<b>Course Objectives</b>						
物理現象に関わる観察や実験などによって、自然に対する関心や探究心を高め、考察する力を育てるために教育領域の一つである。1 学年および 2 学年の物理で学習した内容をより深く理解するため、実験および演習を行う。						
<b>Rubric</b>						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
安全		安全に配慮して基本的な操作を行うことができ、グループの安全を確保できる。	機器などの取り扱い方を理解し、安全に配慮して基本的な操作を行うことができる。	機器などの取り扱い方を理解し、安全に配慮して基本的な操作を行うことができない。		
実験レポートの作成		座学で学んだ内容を発展させ、実験レポート(報告書)を作成できる。	実験結果を座学で学んだ内容と関連付け、実験レポート(報告書)を作成できる。	実験結果を座学で学んだ内容と関連付け、実験レポート(報告書)を作成できない。		
問題解決		演習問題を解き、1 学年や 2 学年で学習した内容を元に種々の物理量を計算できる。	演習問題を解き、1 学年や 2 学年で学習した内容を元に種々の物理量を計算できる。	演習問題を解き、1 学年や 2 学年で学習した内容を元に種々の物理量を計算できない。		
演習レポートの作成		演習問題を解き、自分の考え(考察)を論理的に展開し、演習レポートを作成できる。	演習問題を解き、自分の考え(考察)を含めて演習レポートを作成できる。	演習問題を解き、自分の考え(考察)を含めて演習レポートを作成できない。		
発表		問題の解法を論理的に発表することができ、質疑応答にも的確に回答できる。	問題の解法を論理的に発表することができる。	問題の解法を論理的に発表することができない。		
<b>Assigned Department Objectives</b>						
<b>Teaching Method</b>						
Outline	実験レポートや演習レポートを作成し、自分の行ったことや考えたことを論理的に文章にまとめる能力を身に付けるとともに、演習課題の発表および質疑応答を通じて自分の考えを積極的に出力する能力を養う。					
Style	実験中は常に安全上の注意を怠らないこと。実験後は実験器具を元通りに戻し、机上を掃除する等のマナーを厳守すること。実験データを記入するためのノートや集計に利用する電卓などは各自で準備すること。					
Notice	実験と演習の順は前後することがあるのでガイダンスでの説明に注意すること。					
<b>Course Plan</b>						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	【実験】 実験ガイダンス	実験に関するガイダンスを行い、説明を理解する。		
		2nd	【実験】 重力加速度の測定	単振動の基本的な知識を元に、重力加速度を計算できる。		
		3rd	【実験】 比熱の測定	比熱の基本的な知識を元に、測定した温度から比熱を計算できる。		
		4th	【実験】 ホイートストンブリッジ回路	ホイートストンブリッジ回路の回路方程式から、未知の抵抗値を計算できる。		
		5th	【実験】 サイコロから学ぶ誤差の求め方とデータ分布の性質	統計データを適切に扱い、データ分布について考察できる。		
		6th	【演習】 運動の法則	運動方程式を立て、物体にかかる力や加速度などを計算できる。		
		7th	【演習】 剛体にはたらく力	力のモーメントを応用し、重心位置などを計算できる。		
		8th	【演習】 剛体にはたらく力	力のモーメントを応用し、重心位置などを計算できる。		
	2nd Quarter	9th	【演習】 仕事と力学的エネルギー	力学的エネルギー保存則から、物体の速度や位置などを計算できる。		
		10th	【演習】 仕事と力学的エネルギー	力学的エネルギー保存則から、物体の速度や位置などを計算できる。		
		11th	【演習】 運動量と力積	運動量保存則から、物体の速度や反発係数などを計算できる。		
		12th	【演習】 円運動・慣性力	円運動の運動方程式を立て、速度や向心力を計算できる。		
		13th	【演習】 円運動・慣性力	円運動の運動方程式を立て、速度や向心力を計算できる。		
		14th	【演習】 単振動	単振動の運動方程式を立て、速度や力学的エネルギーなどを計算できる。		
		15th	【演習】 万有引力	ケプラーの法則をもとに、惑星の公転速度や軌道半径を計算できる。また、万有引力から第一宇宙速度や第二宇宙速度を計算できる。		
		16th				
<b>Evaluation Method and Weight (%)</b>						
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total

Subtotal	0	0	80	10	10	100
基礎的能力	0	0	50	5	0	55
專門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	30	5	10	45

Anan College		Year	2016	Course Title	化学
<b>Course Information</b>					
Course Code	0209		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	高等学校 化学基礎 (第1学習社) / フォローアップドリル (数研出版)、化学図録 (数研出版)、化学基礎 書き込みサ ブノート (旺文社)				
Instructor	Yamada Yohei, Sonoda Akihiko				
<b>Course Objectives</b>					
1. 基本的な炭化水素を記述、分類できる。官能基から有機化合物の性質を類推できる。 2. 構成原子間の電子移動により酸化還元反応が進むことを理解し、酸化還元反応の量的な計算ができる。 3. 身近な電池の仕組みを理解し、構造の概略を説明できる。電気分解における量的関係の計算ができる。 4. 与えられた条件から熱化学方程式を立式できる。反応熱の計算ができる。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	基本的な炭化水素を記述できる。官能基から有機化合物の性質を系統的に説明できる。		基本的な炭化水素を記述できる。官能基から有機化合物の性質を類推できる。		基本的な炭化水素を記述できない。官能基から有機化合物の性質を類推できない。
評価項目2	様々な酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができない。
評価項目3	様々な電池の仕組みを系統的に説明できる。電気分解における量的な計算が正確にできる。		代表的な電池の仕組みを説明できる。電気分解における量的な計算ができる。		代表的な電池の仕組みを説明できない。電気分解における量的な計算ができない。
評価項目4	熱化学方程式を立式できる。エネルギー図を用いて反応熱の計算が正確にできる。		熱化学方程式を立式できる。反応熱の計算ができる。		熱化学方程式を立式できない。反応熱の計算ができない。
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	講義は理科総合(1年)での学習内容をふまえて進めていく。理解が十分でない内容は必ず復習をして、授業には集中して取り組むこと。				
Style					
Notice					
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	有機化合物:	飽和炭化水素の名称や構造を説明できる。	
		2nd	有機化合物:	飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造を説明できる。	
		3rd	有機化合物・	飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造、性質を説明できる。	
		4th	有機化合物:	簡単な構造式を見て、官能基を見つけることができる。	
		5th	有機化合物・エステル(酢酸エチル、酢酸ペンチル、サリチル酸メチル)の合成実験	エステルの合成実験を通じて、分子構造の違いが物性(特に匂い)に及ぼす影響を理解する。	
		6th	酸化還元反応:	電子の授受から酸化と還元を理解する。酸化数を決定できる。	
		7th	酸化還元反応:	酸化還元反応式における酸化数の変化から、酸化された物質、還元された物質を決定できる。	
		8th	中間試験		
	2nd Quarter	9th	酸化還元反応:	酸化剤と還元剤の半反応式をつくることができる。	
		10th	酸化還元反応	酸化剤と還元剤の半反応式から全反応式をつくることができる。	
		11th	酸化還元反応	酸化還元滴定の原理を説明し、計算することができる。	
		12th	酸化還元反応	金属のイオン化傾向と金属の反応性について関連付けて説明できる。	
		13th	酸化還元反応	金属のイオン化傾向と金属の反応性について関連付けて説明できる。	
		14th	酸化還元反応	電池の基本的な原理を説明できる。ダニエル電池・ボルタ電池の原理を説明できる。	
		15th	酸化還元反応	鉛蓄電池・燃料電池の原理を説明できる。	
		16th	前期末試験		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	電気分解	電気分解の反応系を見て、電極材料と水溶液中に存在する分子やイオンを列挙できる。	
		2nd	電気分解	電極材料と水溶液の情報から、電極上で起こる反応を記述できる。	
		3rd	電気分解	電気分解の応用例(NaCl水溶液の電気分解・電解精錬)を説明できる。	
		4th	電気分解	電気分解における量的関係の計算ができる。	
		5th	電気分解	電気分解における量的関係の計算ができる。	

		6th	反応熱と熱化学方程式	いくつかの反応熱を挙げ、それを熱化学方程式で記述できる。
		7th	反応熱と熱化学方程式	いくつかの反応熱を挙げ、それを熱化学方程式で記述できる。
		8th	中間試験	
	4th Quarter	9th	反応熱と熱化学方程式	ヘスの法則を用いた反応熱の計算ができる。
		10th	反応熱と熱化学方程式	結合エネルギーを用いた反応熱の計算ができる。
		11th	化学反応の速さ	化学反応の速さを決める因子をいくつか説明できる。
		12th	化学反応の速さ	触媒と活性化エネルギーの関係について説明できる。
		13th	化学反応の速さ	過酸化水素の分解実験
		14th	化学反応の速さ	過酸化水素の分解実験の結果から、発生した酸素の物質と時間の関係および反応の速さと濃度の関係をグラフ化できる。
		15th	化学反応の速さ	ハーバー・ボッシュ法の意義を説明できる。
16th	後期末試験			

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	Total
Subtotal	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	世界史
Course Information					
Course Code	0210		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	世界史B (東京書籍) / 歴史年表 (東京書籍)				
Instructor	Hamada Kaori				
Course Objectives					
1. 日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史を理解できる。 2. 人類が各地の自然環境に適応しながら、諸文明を築き上げ、地域世界を形成したことを理解できる。 3. 民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 4. 現代社会におけるあらゆる問題が地球規模のものであることを理解し、将来の課題を考えることができる。					
Rubric					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。	日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、説明できる。	日本列島の歴史と関連付けながら世界の歴史に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。	
評価項目2		人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、詳細に説明できる。	人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できる。	人類が築いた諸文明に関する基礎的な知識について、十分に説明できない。	
評価項目3		民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から詳細に説明できる。	民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。	民族問題などの文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から十分に説明できない。	
評価項目4		将来の課題を考え、文章にまとめることができ、自分ができる取り組みについて考えることができる。	将来の課題を考え、文章にまとめることができる。	将来の課題について、十分に考えることができない。	
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	世界史の学習により、日本の歴史を世界の様々な地域の歴史と比較して考察する力や日本を外から見る視点を養う。				
Style	講義形式の授業で、世界の歴史への興味・関心を高め、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解する。国家間や国内でみられる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解し、文化に多様性を認識し、お互いの文化を尊重する態度を身につける。				
Notice	講義での学習内容を定期試験で確認しますので、講義を毎回しっかり聴くことを心がけてください。				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	文明以前の人類・オリエント世界と東地中海世界	オリエント世界と東地中海世界の成り立ちを説明できる。	
		2nd	オリエント世界と東地中海世界	オリエント世界と東地中海世界の成り立ちを説明できる。	
		3rd	地中海世界と西アジア	地中海世界と西アジア世界の成り立ちを説明できる。	
		4th	南アジア世界	南アジア世界における各王朝について説明できる。	
		5th	東アジア世界	東アジア世界における各王朝について説明できる。	
		6th	東アジア世界	東アジア世界における各王朝について説明できる。	
		7th	中間試験		
		8th	内陸ユーラシア世界・東南アジア世界・古アメリカ世界	内陸ユーラシア世界・東南アジア世界・古アメリカ世界について説明できる。	
	2nd Quarter	9th	イスラーム世界の形成	イスラーム世界の形成について説明できる。	
		10th	ヨーロッパ世界の形成	ヨーロッパ世界の形成について説明できる。	
		11th	ヨーロッパ世界の形成	ヨーロッパ世界の形成について説明できる。	
		12th	東アジア世界の変容とモンゴル帝国	東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。	
		13th	東アジア世界の変容とモンゴル帝国	東アジア世界の変容とモンゴル帝国について説明できる。	
		14th	海域世界の発展・ユーラシア諸帝国の繁栄	ユーラシア諸帝国の繁栄について説明できる。	
		15th	ユーラシア諸帝国の繁栄・大交易時代	ユーラシア諸帝国の繁栄について説明できる。	
		16th	期末試験答案返却		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	近世のヨーロッパ	近世のヨーロッパについて説明できる。	
		2nd	近世のヨーロッパ	近世のヨーロッパについて説明できる。	
		3rd	欧米における工業化と国民国家の形成	欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。	
		4th	欧米における工業化と国民国家の形成	欧米における工業化と国民国家の形成について説明できる。	
		5th	産業資本主義の発展と帝国主義	産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。	
		6th	産業資本主義の発展と帝国主義	産業資本主義の発展と帝国主義について説明できる。	
		7th	アジア諸地域の変革運動	アジア諸地域の変革運動について説明できる。	
		8th	中間試験		

4th Quarter	9th	世界戦争の時代	世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。
	10th	世界戦争の時代	世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。
	11th	世界戦争の時代	世界戦争が起きた背景とその経過を説明できる。
	12th	国民国家体制と東西の対立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
	13th	国民国家体制と東西の対立	国民国家体制と東西の対立について説明できる。
	14th	経済のグローバル化と新たな地域秩序	経済のグローバル化と地域統合について説明できる。
	15th	経済のグローバル化と新たな地域秩序	新しい国際秩序について理解し、諸問題への取り組みを考えることができる。
	16th	期末試験答案返却	

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	政治経済
<b>Course Information</b>					
Course Code	0211		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	教養の政治学・経済学（学術図書出版社）/憲法[第五版]（岩波書店）				
Instructor	Imada Hiroyuki				
<b>Course Objectives</b>					
1.民主政治の基本理論として社会契約説を説明できる。 2.日本国憲法を基軸に現在の政治制度を説明できる。 3.現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。					
<b>Rubric</b>					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1		民主政治を基本理論として社会契約説を説明できる。	社会契約説の基本枠組みを説明できる。	社会契約説の本枠組みを説明できない。	
到達目標2		現在の政治制度の基本原理・制度・運用を説明できる。	現在の政治制度の基本構造を説明できる。	現在の政治制度の基本構造を説明できない。	
到達目標3		現在の国民経済の問題点や経済関連の諸政策の課題を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できない。	
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	この科目では、民主政治の在り方と経済社会の仕組みについて包括的に学習する。				
Style	授業では、まず、民主主義の基本理論を理解したうえで、現在の政治制度を、日本国憲法を基軸に考察する。今日的な人権問題や社会問題についても学ぶ。次いで、経済の基礎概念を理解した上で、現在の国民経済の把握方法や経済関連の諸政策を考察する。現代企業論についても学ぶ。以上により、政治と経済の基本的論点について説明できる能力を身につける。				
Notice	日常的に、政治や経済の問題について主体的に関心を持つようにしてください。時事的な話題や自分の身の回りの政治や経済に目を向け、授業との関連付けをしましょう。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		2nd	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		3rd	政治各論 「大日本帝国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		4th	政治各論 「大日本帝国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		5th	政治各論 「日本国憲法」 国民主権・権力分立	主権、国民主義、権力分立について説明できる。	
		6th	政治各論 「日本国憲法」 国民主権・権力分立	主権、国民主義、権力分立について説明できる。	
		7th	中間試験		
	8th	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。		
	2nd Quarter	9th	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		10th	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		11th	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		12th	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		13th	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		14th	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		15th	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		16th	期末試験答案返却		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		2nd	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		3rd	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		4th	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		5th	圧力団体・世論	日本の圧力団体、世論について説明できる。	

4th Quarter	6th	経済原論	経済理論、経済体制、経済主体、経済活動について説明できる。
	7th	経済各論 市場経済と価格機構	市場機構、独占・寡占について説明できる。
	8th	中間試験	
	9th	経済各論 国民経済	国民所得、国富について説明できる。
	10th	経済各論 国民経済	国民所得、国富について説明できる。
	11th	経済各論 景気循環	景気変動、景気指標について説明できる。
	12th	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
	13th	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
	14th	経済各論 経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
	15th	経済各論 現代企業論	企業組織、企業の社会的責任について説明できる。
16th	期末試験答案返却		

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	30	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	体育
Course Information					
Course Code	0212		Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	2nd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials					
Instructor	Arai Osamu, Nakashima Hajime				
Course Objectives					
1. 互い協力し合い、主体的に運動に参加できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる 3. 安全に留意して運動や活動ができる。					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を判断し、適切に働きかけながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につける事ができない。
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、安全に留意して行動できない。
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、運動自体を楽しみながら、各運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図ることに重点を置く。				
Style	各種目のルールを説明、基本的な技能の習得、ゲームの実践と段階的に競技を行なう。				
Notice	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。学校指定の体操服で活動して下さい。天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールのルールを理解し説明できる。	
		2nd	ソフトバレーボール	サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		3rd	ソフトバレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4th	ソフトバレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5th	インディアカ	インディアカのルールを理解し説明できる。	
		6th	インディアカ	サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		7th	インディアカ	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8th	インディアカ	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2nd Quarter	9th	ヘルスバレーボール	ヘルスバレーボールのルールを理解し説明できる。	
		10th	ヘルスバレーボール	サービス、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		11th	ヘルスバレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12th	ヘルスバレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13th	体育大会（前期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14th	体育大会（前期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15th	体育大会（前期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16th			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	サッカー・フットサル	サッカー・フットサルのルールを理解し説明できる。	
		2nd	サッカー・フットサル	サッカー・フットサルのルールを理解し説明できる。	
		3rd	サッカー・フットサル	ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。	
		4th	サッカー・フットサル	ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。	
		5th	サッカー・フットサル	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6th	サッカー・フットサル	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7th	ソフトボール	ソフトボールのルールを理解し説明できる。	
		8th	ソフトボール	ソフトボールのルールを理解し説明できる。	
	4th Quarter	9th	ソフトボール	打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	
		10th	ソフトボール	打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	
		11th	ソフトボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12th	ソフトボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	

		13th	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		14th	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		15th	体育大会（後期）	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
		16th		

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

Anan College		Year	2016	Course Title	微分積分
Course Information					
Course Code	0301		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	3rd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	「微分積分 改訂版」 矢野健太郎 石原繁 編 裳華房				
Instructor	,Kushida Masahiro				
Course Objectives					
<ol style="list-style-type: none"> <li>関数や数列の極限の概念を理解し、極限の計算ができる。</li> <li>導関数の公式を用いて基本的な関数の導関数が求められる。</li> <li>基本的な関数の不定積分と定積分の計算ができる。</li> <li>重積分や偏微分の基本的な計算ができる。</li> </ol>					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	数列の極限の意味を理解して基本的な数列極限計算が常時できる。	数列極限の意味を理解して基本的な数列極限計算ができる。	数列の極限計算ができない。		
評価項目2	逆三角関数を理解して、常時その値の計算や積分へ応用ができる	導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値が求められる。	導関数の公式および種々の計算技法を習得して微分計算ができ、接線や極値が求められる。		
評価項目3	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算が常時でき、面積や体積の計算が常時できる。	積分の公式や置換積分など種々の計算技法を習得して積分計算ができ、面積や体積の計算ができる。	積分計算ができない。定積分を面積計算に応用できない。		
評価項目4	累次積分が常時計算できる。重積分が常時計算できる。	累次積分や重積分の計算ができる。	累次積分や重積分の計算ができない。		
評価項目5	累次積分や重積分の計算ができない。	2次までの偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の計算ができ、2変数関数の極値が求められる。	偏導関数が計算できない。偏導関数の応用ができない。		
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では極限、微分法および積分法についての理解を深め、関数の解析、図形の計量に応用できる知識と技能を修得する。また偏微分、重積分の基本的な考え方を理解し、計算力を養う。				
Style	教科書を基にして単元ごとに作成したプリントを用いて、例題を解説したのち関連する問題演習を行う。併せて、習得状況を確認するための小テストを適宜行う。さらに、重要公式を書いた単語帳形式の資料を作成させることで、学習内容を整理するとともに未習得事項を把握する技術を確立する。				
Notice	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。</li> <li>定期試験だけでなく、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。</li> <li>課題等提出物の提出期限は厳守すること。</li> </ol>				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	数列の極限	数列の極限を求めることができる。	
		2nd	無限数列の和	基本的な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	
		3rd	逆三角関数	逆三角関数の意味を理解して、その値が計算できる。	
		4th	逆三角関数の微分	逆三角関数の微分計算ができる	
		5th	逆三角関数を用いた定積分	逆三角関数を用いた定積分が計算できる	
		6th	極値と凹凸	様々な関数の極値、凹凸、変曲点が求められる	
		7th	様々な関数のグラフ	様々な関数のグラフが書ける。	
		8th	中間試験		
	2nd Quarter	9th	不定積分	様々な不定積分の公式を記憶している。	
		10th	定積分 1	不定積分の公式を用いて基本的な定積分の計算ができる。	
		11th	定積分 2	不定積分の公式を用いて様々な定積分の計算ができる。	
		12th	置換積分 1	簡単な置換で定積分が計算できる。	
		13th	置換積分 2	様々な置換で定積分が計算できる。	
		14th	部分積分 1	部分積分を用いて定積分が計算できる。	
		15th	部分積分 2	部分積分を複数回用いて定積分が計算できる。	
		16th	まとめ	様々な定積分が計算できる。	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	定積分の応用 1	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を定積分を用いて計算できる。	
		2nd	定積分の応用 2	様々な曲線で囲まれた図形の面積を定積分を用いて計算できる。	
		3rd	回転体の体積	回転体の体積を定積分を用いて計算できる。	
		4th	累次積分	累次積分が計算できる。	
		5th	重積分	重積分が計算できる。	
		6th	極座標変換	極座標変換して重積分が計算できる。	

4th Quarter	7th	まとめ	様々な重積分が計算ができる。
	8th	中間試験	偏微分の計算や重積分の基本的計算ができる。
	9th	2変数関数と極限	2変数関数やそのグラフの意味が理解できる。極限が計算できる。
	10th	偏微分	偏微分
	11th	第2次導関数1	基本的な関数の第2次導関数が計算できる。
	12th	第2次導関数2	様々な関数の第2次導関数が計算できる。
	13th	合成関数の微分	偏導関数を用いて合成関数の微分が求められる。
	14th	陰関数の微分	偏導関数を用いて陰関数の微分が求められる。
	15th	2変数関数の極値	偏導関数を用いて基本的な2変数関数の極値が求められる。
	16th	まとめ	偏微分が計算できる。偏微分を応用して極値などが求められる。

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	実力試験	国立高専学習到達度試験			その他	Total
Subtotal	40	20	30	0	0	10	100
基礎的能力	40	20	30	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

Anan College	Year	2016	Course Title	数学C
--------------	------	------	--------------	-----

Course Information				
Course Code	0302	Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture	Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences	Student Grade	3rd	
Term	Year-round	Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	「線形代数」矢野健太郎 石原繁 (裳華房)、「微分積分 改訂版」矢野健太郎 石原(裳華房)			
Instructor				

Course Objectives				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行列の和・差・積・実数倍、行列式の値の計算ができる。</li> <li>2. 掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。</li> <li>3. 1次変換による簡単な図形の像・原像を求めることができる。</li> <li>4. 行列の固有値・固有ベクトルを求めて、対角化ができる。</li> <li>5. 極座標と極方程式の基本的な計算ができる。</li> <li>6. 変数分離形・同次形・1階線形など基本的な微分方程式の一般解を求めることができる。</li> <li>7. 定数係数2階線形微分方程式の一般解を求めることができる。</li> <li>8. 変数分離形、線形微分方程式など基本的な微分方程式の特殊解を求めることができる。</li> </ol>				

Rubric				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1	行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。	行列の和差積、および行列式の値の計算ができる。	4次の行列式の計算ができないし、行列の積も正確に計算できない。	
到達目標2	掃き出し法により、正方行列の正則性を判定できる。	掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。	掃き出し法により逆行列を求めることができない。	
到達目標3	1次変換による簡単な図形の原像を求めることができる。	基礎的な1次変換を行列で表すことができ、1次変換による簡単な図形の像を求めることができる。	基礎的な1次変換を行列で表すことができない。	
到達目標4	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。	2次と3次の正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができ、それを用いて対角化できる。	2次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができない。	
到達目標5	極座標と直交座標を相互に変換ができ、極方程式と直交座標に関する方程式を相互に変換できる。	極座標を直交座標に変換ができ、極方程式を直交座標に関する方程式に変換できる。	極座標を直交座標に変換ができない。	
到達目標6	微分方程式が変数分離形、同次形、1階線形かを判定でき、一般解を求めることができる。	変数分離形、同次形、1階線形方程式の一般解を求めることができる。	変数分離形方程式を、積分形に変形できない上に定数変化法を理解できない。	
到達目標7	非斉次項が斉次方程式の一般解に含まれている場合にも特殊解を求めることができる。	斉次方程式の一般解を求めることができ、非斉次方程式の特殊解を求めることができる。	補助方程式を求めることができない。	
到達目標8		初期条件や境界条件を理解し、一般解から特殊解を求めることができる。	初期条件・境界条件を利用して特殊解を求めることができない。	

Assigned Department Objectives

Teaching Method	
Outline	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、前期では、工学への応用で重要な役割を果たす行列と行列式の計算およびその応用を学習する。後期では、最初に極座標と極方程式について学習し、その後、基本的な微分方程式の解法を習得し、計算力を養う。
Style	教科書を基に単元ごとに作成したプリントを用いて授業を進める。例題の解説や計算方法を説明し、関連する問題演習を行う。また、小テストなどを適宜行い習得状況を確認する。
Notice	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。</li> <li>2. 定期試験の勉強はもちろん重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。</li> <li>3. 課題など提出物は提出期限を厳守すること。</li> </ol>

Course Plan				
			Theme	Goals
1st Semester	1st Quarter	1st	行列式 (1)	2次・3次の行列式の値の計算ができる
		2nd	行列式 (2)	行列式の展開を利用して4次の行列式の値の計算ができる。行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。
		3rd	行列	行列の和・差・積・実数倍の計算ができる。
		4th	行列と行列式	正方行列の積と累乗の行列式の値を求めることができる。
		5th	連立1次方程式・逆行列 (1)	2次正方行列の逆行列を求めることができる。
		6th	連立1次方程式・逆行列 (2)	掃き出し法により連立1次方程式の解を求めることができる。
		7th	連立1次方程式・逆行列 (3)	掃き出し法により3次正方行列の逆行列を求めることができる。
		8th	前期中間試験	
	2nd Quarter	9th	1次変換 (1)	対称移動・回転など基本的な1次変換を行列で表すことができる。
		10th	1次変換 (2)	1次変換の合成変換・逆変換を求めることができる。

2nd Semester	3rd Quarter	11th	1次変換 (3)	直線など基本的な平面図形の、1次変換による像・原像を求めることができる。
		12th	固有値と固有ベクトル (1)	2次・3次の正方行列の固有値・固有ベクトルを求めることができる。
		13th	固有値と固有ベクトル (2)	正方行列の固有値・固有ベクトルを用いて対角化できる。
		14th	固有値と固有ベクトル (3)	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。
		15th	固有値と固有ベクトル (4)	対称行列を直交行列を用いて対角化できる。
		16th	前期期末試験	
	4th Quarter	1st	極座標	極座標の表し方を理解し、直交座標に変換でき、その逆もできる。
		2nd	極方程式 (1)	極方程式を理解し、直交座標に関する方程式に変換でき、その逆もできる。
		3rd	極方程式 (2)	2次曲線を表す極方程式を、直交座標に関する方程式に変換できる。
		4th	微分方程式と解	微分方程式を理解し、与えられた関数が一般解か特殊解か判定できる。
		5th	変数分離形微分方程式の解法 (1)	変数分離形微分方程式の一般解を求めることができる。
		6th	変数分離形微分方程式の解法 (2)	初期条件を理解し特殊解を求めることができる。
		7th	同次形微分方程式の解法	同次形微分方程式の一般解を求めることができる。
		8th	後期中間試験	
		9th	1階線形微分方程式の解法 (1)	定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。
		10th	1階線形微分方程式の解法 (2)	定数変化法により1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。
11th	定数係数2階線形微分方程式の解法 (1)	斉次方程式を理解し、一般解を求めることができる。		
12th	定数係数2階線形微分方程式の解法 (2)	初期条件および境界条件を理解し、特殊解を求めることができる。		
13th	定数係数2階線形微分方程式の解法 (3)	非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。		
14th	定数係数2階線形微分方程式の解法 (4)	非斉次方程式を理解し、特殊解と一般解を求めることができる。		
15th	定数係数2階線形微分方程式の解法 (5)	非斉次項の関数が、斉次形方程式の一般解に含まれている場合も特殊解を求めることができる。		
16th	後期期末試験			

#### Evaluation Method and Weight (%)

	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	90	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College	Year	2016	Course Title	日本語総合
--------------	------	------	--------------	-------

### Course Information

Course Code	0303	Course Category	General / Compulsory
Class Format	Lecture	Credits	School Credit: 1
Department	Liberal Arts and Sciences	Student Grade	3rd
Term	First Semester	Classes per Week	前期:2
Textbook and/or Teaching Materials	高専日本語アビリティ I・II (阿南高専) / 級別漢字学習帳7級~2級 (東京法令出版)		
Instructor	Tsuboi Taiji, Nishikori Hirofumi		

### Course Objectives

- 1.古文・漢文に触れ、中国文化との関係を含む日本文化への理解を深め、親しむことができる。
- 2.情報の収集・選択・構成を適切に行い、活用できる。
- 3.論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができる。

### Rubric

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
到達目標1	古文・漢文の時代背景・大意を適切に説明し、よどみなく暗唱できる。	古文・漢文の時代背景・大意を説明し、暗唱できる。	古文・漢文の時代背景・大意の説明、暗唱に欠ける。
到達目標2	情報の収集・選択・構成を適切に行い、効果的に活用できる。	情報の収集・選択・構成を適切に行い、活用できる。	情報の収集・選択・構成を適切に行い、活用することに欠ける。
到達目標3	論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができ、その向上方法を説明できる。	論理的で、かつ、効果的な口頭表現ができる。	論理的で、かつ、効果的な口頭表現に欠ける。

### Assigned Department Objectives

### Teaching Method

Outline	日本語の表現に関する基礎知識・技術を習得し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。
Style	授業は、表現に関する実践を基本とする。また、古文・漢文の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、社会的データの活用や漢字学習により理解・表現の力を培う。
Notice	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。

### Course Plan

		Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス 情報の信頼性	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。 情報の信頼性の確保について説明できる。
		2nd	情報の収集と分類	ブレインストーミング法、K-J法について説明し、実践できる。
		3rd	口頭表現	口頭表現の特徴について説明できる。
		4th	プレゼンテーション	情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。
		5th	プレゼンテーション	情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。
		6th	漢字とかな	漢字とかな等について説明できる。
		7th	漢字とかな	漢字とかな等について説明できる。
		8th	前期中間試験	
	2nd Quarter	9th	答案返却 古文	枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。
		10th	古文	枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。
		11th	古文	枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明し、暗唱できる。
		12th	漢文	論語の背景・大意を理解し、暗唱できる。
		13th	小論文	情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。
		14th	小論文	情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。
		15th	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッション技法を理解し、実践できる。
		16th	答案返却	

### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	75	10	0	10	5	100
基礎的能力	75	10	0	10	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	英語 3	
Course Information						
Course Code	0304		Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 4		
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	3rd		
Term	Year-round		Classes per Week	前期:4 後期:4		
Textbook and/or Teaching Materials	Pole Star /Rapid Reading/ Repeat/ Conquer/ 英語の構文 8 0 /他					
Instructor	, ,Tanigawa Naoko					
Course Objectives						
1. 300語～400語程度の英文を速読し大意を把握できるようにする。 2. 本文で使われている重要語句と語彙集で取り上げた語句を習得する。 3. 本文および文法参考書で取り上げた文法事項を理解する。 4. リスニング力の向上を図る。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。	教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。			
評価項目2	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句を、主な派生語も含め理解できている。	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。	教科書の読み物と語彙集で学習した語句に理解できないものが多く残っている。			
評価項目3	教科書の読み物の英文で学んだ重要語句・重要文法事項を他の英文の理解にも応用できる。	教科書の読み物の英文を、パートごとに重要語句・重要文法事項を含めほぼ理解できた。	教科書の読み物の英文について、理解できないところが多く残っている。			
評価項目4	教科書の読み物を音声に合わせて十分英語らしい発音でシャドウイングできる。聞いてよくわかる。	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句をほぼ理解できている。聞いて概ねわかる。	教科書の読み物と語彙集で学習した重要語句に理解できないものが多く残っている。聞いてわからない。			
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	検定教科書Pole Starを使用し精読を行います。Rapid Readingで速読力を養います。Conquerを使用し、英文法力と語彙力をつけます。英語の構文80を使い構文を基本構文をマスターします。All Ears Level 1と2でリスニング力をつけます。基礎のDVD Clipを視聴し、ドキュメンタリー英語にふれます。表現ドリルREPEATを用いて基礎英作文力をつけます。また、Topic Writingによる課題英作文の提出を求め、自由英作文力をつけます。以上の活動を通じて、総合的に英語の3技能(読む、聞く、書く)を向上させます。					
Style	速読テクニックを意識しながら、300語～400語程度の英文の読解演習を行います。授業や予復習に際しては、ワークブック・補助プリントを併用し、本文に使われた語彙や文法事項を確認し、英語の総合的運動能力の向上を目指します。文法・構文力は、2年次から使用している文法参考書・ワークブックを併用して補強します。語彙力は、1年次から使用している語彙集も用いて補強します。リスニング演習、英語DVDの視聴も行います。					
Notice	1. 授業には必ず英和辞典(電子辞書可)を持参すること。 2. 教科書の語句・語彙集の語句について適宜小テスト、課題自習プリントを課す。 3. 提出物の提出期限は厳守すること。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		2nd	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat Reading	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		3rd	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		4th	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		5th	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		6th	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		7th	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		8th	Polestar Lesson1~4 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
	2nd Quarter	9th	前期中間試験			
		10th	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		11th	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		12th	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		13th	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		

2nd Semester	3rd Quarter	14th	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repea, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。
		15th	Polestar Lesson 5~6 Rapid Reading, All Ears Level 1, Repeat	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。
		16th	前期期末試験	
	4th Quarter	1st	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80, 課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		2nd	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		3rd	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		4th	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		5th	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80、課題英作文	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		6th	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		7th	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		8th	Polestar Lesson 7~8 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
	4th Quarter	9th	後期中間試験	
		10th	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		11th	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		12th	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		13th	Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
14th		Polestar Lesson 9-10 Rapid Reading, All Ears Level 2, 英語の構文80	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	
15th		遅れ等の調整時間	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	
16th		遅れ等の調整時間	到達目標の1から4について、全課の構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	60	0	0	15	15	10	100
基礎的能力	60	0	0	15	15	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	英作文
<b>Course Information</b>					
Course Code	0305		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	3rd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	New Favorite English Expression I (東京書籍)、同準拠Workbook Task-based/				
Instructor	Ogasawara Maiko, Yamada Maho				
<b>Course Objectives</b>					
英語を用いたコミュニケーション能力、伝達能力を身に付け、それを伸ばすことを目的とする。様々なテーマに沿って情報や考えを英語で表現、発表できること。基本的な文法事項を学びながらそれを使って英文が書けるよう作文力を習得することを具体的な目標とする。					
<b>Rubric</b>					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標1	教科書のトピックに関する内容を十分理解し、自身を持って積極的に発表できる。		教科書の内容を理解し、発表を実践できる。		教科書の内容が十分理解できず、発表を実践することが困難である。
到達目標2	構文を理解し、それらを活用することができ、自分の考えを英語で表現できる。		構文を理解し、指導者のサポートによりそれを活用できる。英語で自己表現しようとする姿勢がある。		構文が十分理解できず、応用が困難であり、まとまった考えを英語で表現できない。
到達目標3	テーマに沿った100語程度の作文ができ、それを正しい発音やイントネーションで発表できる。		テーマに沿った100語程度の作文ができ、それを口頭で発表できる。		暗唱ができず、テーマの内容を口頭で十分に発表できない。
<b>Assigned Department Objectives</b>					
<b>Teaching Method</b>					
Outline	スピーキング活動ではグループやペアでの活動で発話の機会を持つ。前期ではプレゼンテーション、後期ではディベートなどを取り入れ、自分の意見を自身を持って発表する実践力を養う。ライティング活動では基本的な構文、文法事項を学び、ある程度のパラグラフが書けるよう英文のスキル向上を目指す。前期後期、各1回のオールチェックで十分な自己表現ができるよう日々の講義で動機付け、技能の習熟を目的とする。				
Style	テキストとワークブックを中心に英語を聞くこと、話すことを実践する。また、正しい英文が書けるよう指導する。				
Notice	授業には必ず辞書を携行し、積極的に活用すること。ワークブック及びプリントによる課題提出が定期的に求められる。前期、後期ともにオールチェックを実施するので、授業には常に積極的に臨み、英語を使うことを実践すること。				
<b>Course Plan</b>					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	Unit 1 Lesson 1,2	基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。	
		2nd	Unit 1 Lesson 3	同上	
		3rd	Unit 1 Lesson 4,5	同上	
		4th	Unit 2 Lesson 6,7	同上	
		5th	Unit 2 Lesson 8,9	同上	
		6th	Unit 2 Lesson 10	同上	
		7th	Oral Check	100語程度の作文ができ、それを自信を持って口頭ではっぴょうできる。	
		8th	前期中間試験		
	2nd Quarter	9th	Unit 3 Lesson 11	基礎的な文構造、文法事項を学び、トピックに応じて実際にそれらを使うことができる。	
		10th	Unit 3 Lesson 12	同上	
		11th	Unit 3 Lesson 13	同上	
		12th	Unit 3 Lesson 14	同上	
		13th	Unit 3 Lesson 15	同上	
		14th	Communication Workshop		
		15th	前期期末試験		
		16th			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	Unit 4 Lesson 16	パラグラフの構成と書き方について学び、それを実践することができる。	
		2nd	Unit 4 Lesson 17	同上	
		3rd	Unit 4 Lesson 18	同上	
		4th	Unit 4 Lesson 19	同上	
		5th	Unit 4 Lesson 20	同上	
		6th	Expression Workshop		
		7th	Oral Check	様々な場面に応じた発表が口頭でできる。	
		8th	後期中間試験		
	4th Quarter	9th	Unit 5 Lesson 21	情報や考え持などを英語で豊かに表現できる。	
		10th	Unit 5 Lesson 22	同上	
		11th	Unit 5 Lesson 23	同上	
		12th	Unit 5 Lesson 24	同上	



Anan College		Year	2016	Course Title	物理
Course Information					
Course Code	0306		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	3rd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	総合物理2 (数研)				
Instructor	Matsuo Toshihiro, Hirayama Motoi				
Course Objectives					
<p>波の性質：波の基本原則を説明でき、波長や振動数などの基本量を用いて波を記述できる。  音と光：音や光の諸性質を波の性質に基づいて説明でき、基本的な計算ができる。  電気と磁気：クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を説明できる。また、電流が磁場を生み出すことを説明でき、簡単な場合について磁場の強さを計算できる。  原子：光や電子の粒子性と波動性を説明でき、ボーアの原子モデルから離散スペクトルを計算できる。また、原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できる。  微分積分を用いた力学：微積分を用いて力学の基本的な扱いができる。</p>					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
波の性質	波の基本原則を説明でき、波長や振動数などの基本量を用いて波を記述できる		波の基本的性質を説明することができ、波の速さや振動数を計算できる		波の基本的性質をあげることができず、波の速さや振動数を計算できない
音と光	音や光の諸性質を説明でき、波に関する基本法則を応用問題に運用できる		音や光の諸性質を知り、波の振る舞いに関する基本的な計算ができる		音や光の諸性質をあげることができず、波の振る舞いに関する基本的な計算ができない
電気と磁気	クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を、応用問題の解決に利用できる。電流が磁場を生み出すことを理解し、磁気に関する基礎的な現象を法則にもとづいて計算できる		電気に関する基礎的な現象を説明でき、クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を運用できる、電流が磁場を生み出すことを説明でき、簡単な場合について磁場の強さを計算できる		電気に関する基礎的な現象をあげることができず、クーロンの法則や電場などの基本的概念を運用できない。電流が磁場を生み出すことを説明できず、磁気に関する基礎的な現象を説明できない
原子	光や電子の二重性を説明でき、ボーアの理論から計算した離散スペクトルとバンド理論を関連づけられる。また、原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明でき、環境社会への影響を説明できる。		光や電子の粒子性・波動性を説明でき、ボーアの理論から離散スペクトルを計算できる。また、原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できる		光や電子の粒子性・波動性を説明できない。ボーアの量子条件が何か説明できない。原子核や核エネルギー、放射線についての基本的事項を説明できない
微分積分を用いた力学	力学の基本法則を微積分を用いて表すことができ、問題解決に応用できる		微分積分を用いた力学の基本的な扱いができる		微分積分を用いた力学の基本的な扱いができない
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術の基礎としてあらゆる分野に使われている。本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。3年では、波動について学んだ後、電磁気学と原子物理の基礎を学ぶ。また、微分積分を用いた力学の扱い方について初等的な内容の学習をすすめる。				
Style	授業は、小テスト（前回の復習）、講義による説明（新しく学ぶ内容）、問題演習（学んだ内容の確認）で構成します。				
Notice					
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	波と媒質の運動	波に関する基本原則を説明できる	
		2nd	正弦波の式	正弦波の式を用いて波の性質を分析できる	
		3rd	波の伝わり方	波の伝わり方をホイヘンスの原理を用いて説明できる	
		4th	音の性質	音に関する諸現象を波の性質を用いて説明できる	
		5th	発音体の振動と共振・共鳴	発音体の振動に関する諸計算ができる	
		6th	音のドップラー効果	ドップラー効果による振動数変化を計算できる	
		7th	光の性質	光に関する諸現象を波の性質を用いて説明できる	
		8th	中間試験		
	2nd Quarter	9th	レンズ	レンズの特性を光の基本的な性質から説明できる	
		10th	光の干渉と回折	光の干渉と回折に関する計算ができる	
		11th	微分積分を用いた力学	速度や加速度のような基本的な量を微分や積分を用いてあらわすことができる	
		12th	静電気力	クーロンの法則により電荷同士に働く力を計算できる	
		13th	電場と電位	電荷がつくる電場とその電位を説明できる	
		14th	電流	荷電粒子の運動の総体として電流を説明できる	
		15th	半導体	半導体の基本的事項を説明できる	
		16th	期末試験返却		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	磁場	磁場の性質を説明できる	
		2nd	電流の作る磁場	電流の作る磁場を計算できる	

		3rd	電流が磁場から受ける力	電流が磁場から受ける力を計算できる
		4th	ローレンツ力	磁場中を運動する荷電粒子が受ける力を説明できる
		5th	電磁誘導の法則	電場や磁場が変化するときの現象を説明できる
		6th	電子	電子の比電荷を説明できる
		7th	光の粒子性	アインシュタインの光量子説を説明できる
		8th	中間試験	
	4th Quarter	9th	粒子性と波動性	X線の粒子性とコンプトン効果、ドブロイの物質波を説明できる
		10th	原子の構造とエネルギー準位	ラザフォードの原子模型を説明できる
		11th	ボーアの理論	ボーアの理論によりエネルギー準位の計算ができる
		12th	学習到達度試験	
		13th	原子核	原子核の構成と同位体を説明できる
		14th	放射線とその性質	放射線の種類とそれらの性質を説明できる
		15th	核反応と核エネルギー	核反応を説明できる
		16th	期末試験返却	

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	到達度試験	小テスト	レポート課題	態度	その他	Total
Subtotal	40	10	20	20	10	0	100
基礎的能力	20	10	20	10	10	0	70
専門的能力	20	0	0	10	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	日本史
Course Information					
Course Code	0307	Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture	Credits	School Credit: 2		
Department	Liberal Arts and Sciences	Student Grade	3rd		
Term	Year-round	Classes per Week	前期:2 後期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	高校日本史B (山川出版社) / 写真資料集: 日本史のアーカイブ (とうほう)				
Instructor					
Course Objectives					
<p>1. 古代から現代にいたる我が国の歴史の基礎的知識について説明できる。</p> <p>2. 過去のいろいろな出来事を歴史資料を通して明らかにし、時間の流れに即して因果関係を説明できる。</p> <p>3. 世界的視野に立つて歴史の展開を考察することで、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けられる。</p>					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1	古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、詳細に説明できる。	古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、その概要を説明できる。	古代から現代に至る我が国の歴史の基礎的知識について、十分に説明できない。		
到達目標2	日本の歴史について、詳細に説明できる。	日本の歴史の流れについて、その概略を説明できる。	日本の歴史の流れについて、十分に説明できない。		
到達目標3	国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して詳細に説明できる。	国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して説明できる。	国際社会に生きる日本人としての自覚について、歴史の展開に即して十分に説明できない。		
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	日本史を学ぶことによって、わが国の伝統や文化を理解し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。				
Style	講義形式の授業で、日本の諸地域における歴史の流れについて、教科書を用いて考察する。また、日本文化の特色・人々の生活・都市の形成・地域同士の交流などに着目し、歴史資料を通して理解を深める。				
Notice	教科書に加えて、通常授業では歴史資料集や学習プリント等を使用する。また、ノート提出も予定しているので、「講義をしっかりと聞き、ノートをしっかりとる」と心がけてほしい。				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		2nd	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		3rd	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		4th	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		5th	原始・古代	古代社会の形成や律令国家の形成、貴族政治の展開について理解し説明できる。(旧石器時代～平安中期)	
		6th	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		7th	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		8th	中間試験		
	2nd Quarter	9th	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		10th	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		11th	中世	武家社会の形成や成長の様相について理解し説明できる。(平安後期～室町)	
		12th	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		13th	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		14th	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		15th	近世 (1)	幕藩体制の成立の様相について理解し説明できる。(安土・桃山～江戸初期)	
		16th	期末試験答案返却時間		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	近世 (2)	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期～後期)	
		2nd	近世 (2)	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期～後期)	
		3rd	近世 (2)	幕藩体制の展開や動揺の様相について理解し説明できる。(江戸中期～後期)	
		4th	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。(幕末～明治)	

		5th	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 (幕末～明治)
		6th	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 (幕末～明治)
		7th	近代 (1)	近代国家の成立の様相について理解し説明できる。 (幕末～明治)
		8th	中間試験	
	4th Quarter	9th	近代 (2)	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 (大正～戦前昭和)
		10th	近代 (2)	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 (大正～戦前昭和)
		11th	近代 (2)	近代日本とアジアの関係について理解し説明できる。 (大正～戦前昭和)
		12th	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
		13th	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
		14th	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
		15th	現代	現代の世界と日本との関わりについて説明できる。 (戦後昭和～平成)
		16th	期末試験答案返却時間	

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	地理
Course Information					
Course Code	0308		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	3rd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	新詳地理(帝国書院)/新詳高等地図(帝国書院)				
Instructor	Miyamoto Kakuwa				
Course Objectives					
<p>1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について系統地理的に理解できる。</p> <p>2. 現代世界を構成する各地域を地誌的に考察し、多様な特色を持っていることを理解できる。</p> <p>3. 地理的に考察する意義や有用性に気づき、地理的な見方や考え方を身につけられる。</p>					
Rubric					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		自然環境と人間生活のかかわりと地域性について、地理的事象から課題を設定し、追究できる。	自然環境と人間生活のかかわりと地域性を系統地理的に理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	自然環境と人間生活について、個別の事象のみ説明できる。	
評価項目2		現代社会の各地域に関する資料や情報を地誌的に追究する技能を身につけ、まとめることができる。	現代社会の各地域について、多様な特色があることを理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	現代社会の各地域について、特定の国・項目についてのみ説明できる。	
評価項目3		現代世界の多様性や地域性をとらえる視点や方法を考察し、系統地理・地誌の両面から説明できる。	地理的に考察する意義と有用性に気づき、現代世界と日本を概観し、地理的事象について説明できる。	地図を見て、現代社会の各地域の位置と地形のみ説明できる。	
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察する。				
Style	講義形式での授業をつつして、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
Notice	都道府県名や主要国名、首都名などは地理学習の基本です。地図帳を開く習慣を身につけてください。				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	地理情報と地図、地図の活用	地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化がわかることを考察し、地図化の技能を習得している。	
		2nd	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		3rd	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		4th	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		5th	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		6th	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		7th	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		8th	中間試験		
	2nd Quarter	9th	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		10th	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		11th	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		12th	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		13th	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		14th	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		15th	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		16th	期末試験答案返却時間		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		2nd	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		3rd	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	

4th Quarter	4th	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	5th	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	6th	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	7th	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて感心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	8th	中間試験	
	9th	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	10th	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	11th	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	12th	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	13th	現代世界の諸地域	世界の諸地域よ多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	14th	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	15th	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	16th	期末試験答案返却時間	

#### Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016	Course Title	体育
Course Information					
Course Code	0309		Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department	Liberal Arts and Sciences		Student Grade	3rd	
Term	Year-round		Classes per Week	前期:2 後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials					
Instructor	Arai Osamu, Nakashima Hajime				
Course Objectives					
<p>1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。</p> <p>2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。</p> <p>3.安全に留意して運動や活動ができる。</p>					
Rubric					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
到達目標1		自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。	自己の取るべき行動が判断できない。または他人と協力する姿勢がみられず、活動に参加できない。	
到達目標2		自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の技能や体力を身につけることができない。	
到達目標3		活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、事故の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	活動中、安全に留意して行動できない。	
Assigned Department Objectives					
Teaching Method					
Outline	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。合わせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。				
Style	前期・後期の第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。				
Notice	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。学校指定の体操服で活動してください。天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにしてください。				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2nd	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3rd	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	2nd Quarter	9th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13th	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14th	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15th	体育大会(前期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16th			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2nd	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3rd	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
	4th Quarter	9th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		10th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	

	11th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	12th	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	13th	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14th	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15th	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16th		

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100